

データヘルス計画

第2期計画書

最終更新日：平成 30 年 09 月 28 日

ワイジェイカード健康保険組合

STEP 1 - 1 基本情報

組合コード	91376
組合名称	ワイジェイカード健康保険組合
形態	単一
業種	金融業、保険業

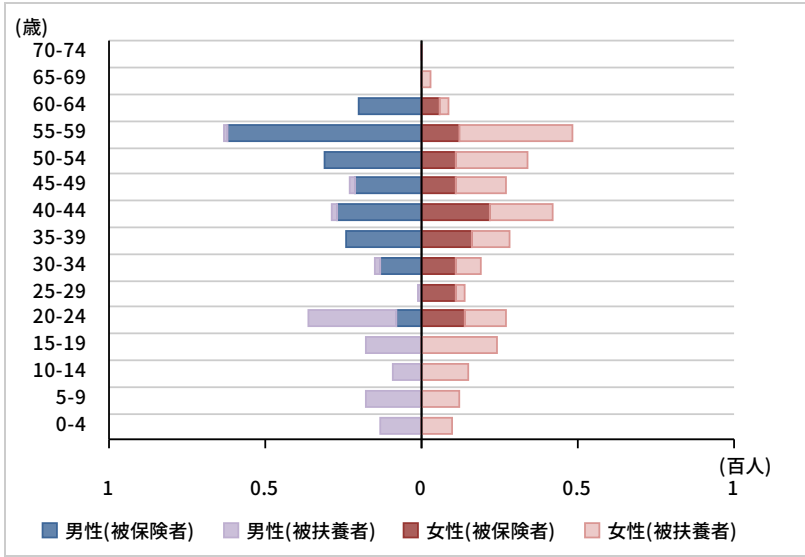
	平成30年度見込み	平成31年度見込み	平成32年度見込み
被保険者数 * 平均年齢は 特例退職被保険者を除く	520名 男性56.7% (平均年齢47.2歳) * 女性43.3% (平均年齢36.8歳) *	-名 男性-% (平均年齢-歳) * 女性-% (平均年齢-歳) *	-名 男性-% (平均年齢-歳) * 女性-% (平均年齢-歳) *
特例退職被保険者数	0名	-名	-名
加入者数	880名	-名	-名
適用事業所数	1カ所	-カ所	-カ所
対象となる拠点数	3カ所	-カ所	-カ所
保険料率 *調整を含む	84.6‰	-‰	-‰

		健康保険組合と事業主側の医療専門職					
		平成30年度見込み		平成31年度見込み		平成32年度見込み	
		常勤(人)	非常勤(人)	常勤(人)	非常勤(人)	常勤(人)	非常勤(人)
健保組合	顧問医	0	0	-	-	-	-
	保健師等	0	0	-	-	-	-
事業主	産業医	0	2	-	-	-	-
	保健師等	0	0	-	-	-	-

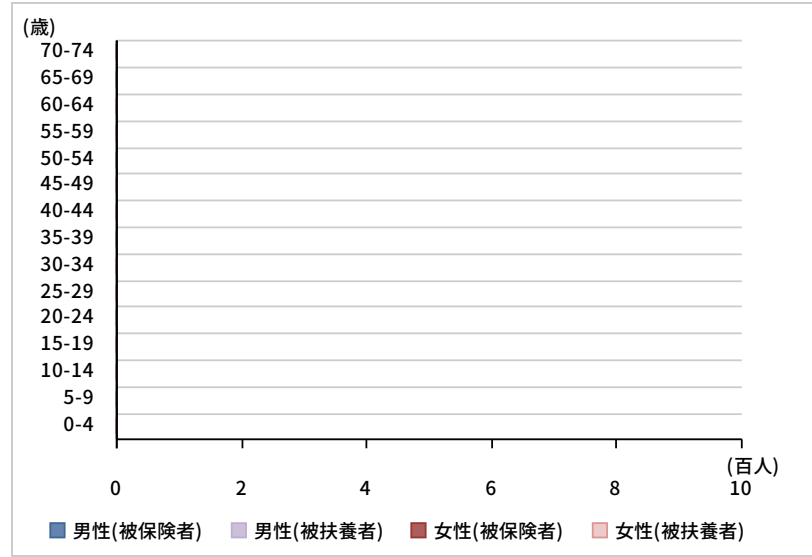
		第2期における基礎数値	
特定健康診査実施率 (特定健康診査実施者数÷ 特定健康診査対象者数)	全体	284 / 332 = 85.5 %	
	被保険者	226 / 234 = 96.6 %	
	被扶養者	58 / 98 = 59.2 %	
特定保健指導実施率 (特定保健指導実施者数÷ 特定保健指導対象者数)	全体	35 / 48 = 72.9 %	
	被保険者	35 / 46 = 76.1 %	
	被扶養者	0 / 2 = 0.0 %	

		平成30年度見込み		平成31年度見込み		平成32年度見込み	
		予算額(千円)	被保険者一人 当たり金額 (円)	予算額(千円)	被保険者一人 当たり金額 (円)	予算額(千円)	被保険者一人 当たり金額 (円)
保健事業費	特定健康診査事業費	2,607	5,013	-	-	-	-
	特定保健指導事業費	2,944	5,662	-	-	-	-
	保健指導宣伝費	1,079	2,075	-	-	-	-
	疾病予防費	25,423	48,890	-	-	-	-
	体育奨励費	70	135	-	-	-	-
	直営保養所費	0	0	-	-	-	-
	その他	1	2	-	-	-	-
	小計 …a	32,124	61,777	0	-	0	-
経常支出合計 …b	341,326	656,396	-	-	-	-	
a/b×100 (%)	9.41		-	-	-	-	

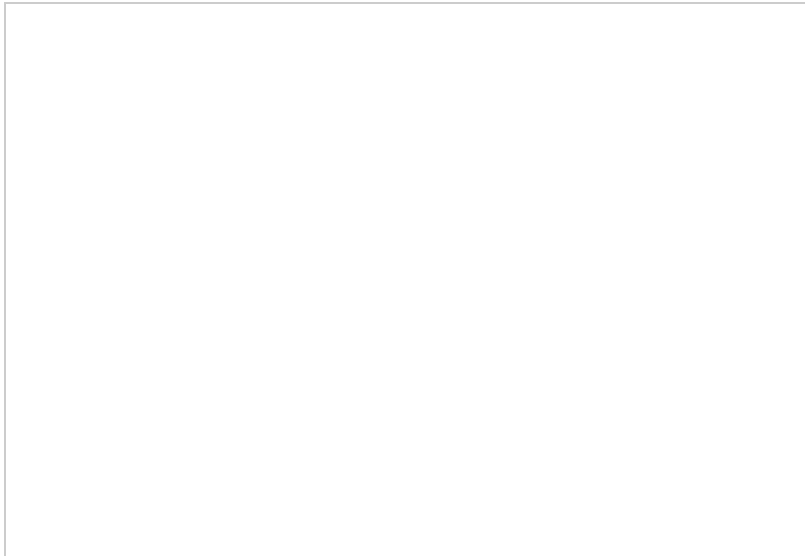
平成30年度見込み



平成31年度見込み



平成32年度見込み



男性（被保険者）

平成30年度見込み				平成31年度見込み				平成32年度見込み			
0～4	0人	5～9	0人	0～4	-人	5～9	-人	0～4	-人	5～9	-人
10～14	0人	15～19	0人	10～14	-人	15～19	-人	10～14	-人	15～19	-人
20～24	8人	25～29	0人	20～24	-人	25～29	-人	20～24	-人	25～29	-人
30～34	13人	35～39	24人	30～34	-人	35～39	-人	30～34	-人	35～39	-人
40～44	27人	45～49	21人	40～44	-人	45～49	-人	40～44	-人	45～49	-人
50～54	31人	55～59	62人	50～54	-人	55～59	-人	50～54	-人	55～59	-人
60～64	20人	65～69	0人	60～64	-人	65～69	-人	60～64	-人	65～69	-人
70～74	0人			70～74	-人			70～74	-人		

女性（被保険者）

平成30年度見込み				平成31年度見込み				平成32年度見込み			
0～4	0人	5～9	0人	0～4	-人	5～9	-人	0～4	-人	5～9	-人
10～14	0人	15～19	0人	10～14	-人	15～19	-人	10～14	-人	15～19	-人
20～24	14人	25～29	11人	20～24	-人	25～29	-人	20～24	-人	25～29	-人
30～34	11人	35～39	16人	30～34	-人	35～39	-人	30～34	-人	35～39	-人
40～44	22人	45～49	11人	40～44	-人	45～49	-人	40～44	-人	45～49	-人
50～54	11人	55～59	12人	50～54	-人	55～59	-人	50～54	-人	55～59	-人
60～64	6人	65～69	0人	60～64	-人	65～69	-人	60～64	-人	65～69	-人
70～74	0人			70～74	-人			70～74	-人		

男性（被扶養者）

平成30年度見込み				平成31年度見込み				平成32年度見込み			
0～4	13人	5～9	18人	0～4	-人	5～9	-人	0～4	-人	5～9	-人
10～14	9人	15～19	18人	10～14	-人	15～19	-人	10～14	-人	15～19	-人
20～24	28人	25～29	1人	20～24	-人	25～29	-人	20～24	-人	25～29	-人
30～34	2人	35～39	0人	30～34	-人	35～39	-人	30～34	-人	35～39	-人
40～44	2人	45～49	2人	40～44	-人	45～49	-人	40～44	-人	45～49	-人
50～54	0人	55～59	1人	50～54	-人	55～59	-人	50～54	-人	55～59	-人
60～64	0人	65～69	0人	60～64	-人	65～69	-人	60～64	-人	65～69	-人
70～74	0人			70～74	-人			70～74	-人		

女性（被扶養者）

平成30年度見込み				平成31年度見込み				平成32年度見込み			
0～4	10人	5～9	12人	0～4	-人	5～9	-人	0～4	-人	5～9	-人
10～14	15人	15～19	24人	10～14	-人	15～19	-人	10～14	-人	15～19	-人
20～24	13人	25～29	3人	20～24	-人	25～29	-人	20～24	-人	25～29	-人
30～34	8人	35～39	12人	30～34	-人	35～39	-人	30～34	-人	35～39	-人
40～44	20人	45～49	16人	40～44	-人	45～49	-人	40～44	-人	45～49	-人
50～54	23人	55～59	36人	50～54	-人	55～59	-人	50～54	-人	55～59	-人
60～64	3人	65～69	3人	60～64	-人	65～69	-人	60～64	-人	65～69	-人
70～74	0人			70～74	-人			70～74	-人		

基本情報から見える特徴

- 健保組合には医療専門職が不在
- 男性の被保険者は年齢に偏りがある

STEP 1 - 2 保健事業の実施状況

保健事業の整理から見える特徴

人間ドックやがん検診など検診関係が充実している。
健診受診者へのフォローが不足している。

事業の一覧

職場環境の整備	
加入者への意識づけ	
個別の事業	
特定健康診査事業	特定健診（被保険者）
特定健康診査事業	特定健診（被扶養者）
特定保健指導事業	特定保健指導
保健指導宣伝	育児読本
保健指導宣伝	健康管理に関するパンフレット等の配布
保健指導宣伝	医療費通知
保健指導宣伝	歯の予防健診
疾病予防	こころとからだの健康相談
疾病予防	家族健診
疾病予防	がん検診
疾病予防	人間ドック補助
疾病予防	インフルエンザ予防接種補助
疾病予防	常備薬の斡旋
疾病予防	うがい薬の提供
疾病予防	禁煙チャレンジ
疾病予防	宿泊施設等利用補助
疾病予防	マッサージルーム開設
疾病予防	野球観戦シート
疾病予防	リゾート施設利用補助
体育奨励	スポーツ大会等参加費補助
体育奨励	ウォーキングプログラム
事業主の取組	
1	体育奨励

※事業は予算科目順に並び替えて表示されています。

予算科目	注1)事業分類	事業名	事業の目的および概要	対象者					事業費(千円)	振り返り			注2)評価
				資格	対象事業所	性別	年齢	対象者		実施状況・時期	成功・推進要因	課題及び阻害要因	
職場環境の整備													
加入者への意識づけ													
個別の事業													
特定健康診断事業	3	特定健診(被保険者)	【目的】特定健診の受診率向上 【概要】事業主が行う定期健康診断に併せて実施	被保険者	全て	男女	40～74	全員	1,525	定期健康診断に併せて実施(特定健診部分の費用を負担) 6～9月 237名	定期健康診断に併せて行うことにより、ほぼ全員が受診	特になし	4
	3	特定健診(被扶養者)	【目的】特定健診の受診率向上 【概要】家族健診として特定健診も併せて毎年実施	被扶養者	全て	男女	40～74	全員	505	家族の生活習慣病健診の一貫として実施 5～12月の受診実績:72人	利便性の高い委託会社を利用し、都合のよい健診先を選択可能	特になし	4
特定保健指導事業	4	特定保健指導	【目的】保健指導の実施率向上 【概要】保健指導委託会社を使い対象者への指導を実施	被保険者 被扶養者	全て	男女	40～74	全員	1,158	保健指導を委託、福岡本社は集合面談、東京本社等は個別対応	事業主側の協力による例年予定通りの一括指導が可能	特になし	4
保健指導宣伝	5	育児読本	【目的】育児サポート 【概要】育児雑誌を対象者に定期的に配布	被保険者 被扶養者	全て	女性	20～74	基準該当者	0	育児読本の配布	業者から直送	特になし	4
	5	健康管理に関するパンフレット等の配布	【目的】疾病予防 【概要】疾病予防や健康管理に関するパンフレット等の配布	被保険者 被扶養者	全て	男女	0～74	全員	233	健康カレンダー、定期的な疾病予防パンフの配布	健保から郵送	特になし	4
	5	医療費通知	【目的】医療費の内容の正確な情報提供 【概要】3ヶ月毎に年4回、対象の被保険者宛に送付	被保険者	全て	男女	20～65	基準該当者	228	実施回数:4回/年(3月・6月・9月・12月)			5
	3	歯の予防健診	【目的】う歯・歯周病等の予防、早期発見、早期治療 【概要】希望者に対して、歯科医院で実施する歯科健診を無料で実施	被保険者 被扶養者	全て	男女	0～74	全員	93	平成28年度受診者:なし HPへの掲載、新規資格取得者へのパンフレット配布	特になし	歯の予防健診の周知不足	1
疾病予防	6	こころとからだの健康相談	【目的】外部専門機関の相談窓口設置によるこころとからだの不調者への早期対応 【概要】電話及びウェブでの一般疾病とメンタル2種類の健康相談を実施・周知	被保険者 被扶養者	全て	男女	20～74	全員	216	平成28年度相談件数:0件 HPや新規資格取得者へのパンフレット配布	特になし	相談窓口の周知不足	1
	3	家族健診	【目的】疾病予防 【概要】配偶者全員に健康診断の案内を実施、日帰りドックをベースに乳がん、子宮がん検診も併せて実施	被扶養者	全て	男女	20～74	全員	4,533	配偶者及び40歳以上の被扶養者に、日帰り人間ドックレベルの健康診断の機会を提供 平成28年度家族検診利用者:72人	委託先を利用し、都合のよい健診先を選択可能	全員健診を目指す	4
	3	がん検診	【目的】がんの予防、早期発見、早期治療 【概要】事業主が行う定期健康診断に併せて実施(PSA、子宮がん・乳がん検診)	被保険者	全て	男女	30～65	全員	1,068	平成28年度受診者:236人 40歳以上の男性(PSA)、30歳以上の女性(子宮がん・乳がん)の健診実施	事業主が行う定期健康診断と併せて実施		4
	3	人間ドック補助	【目的】健康状態の確認、疾病の早期発見・早期治療 【概要】補助額:50,000円、年1回限り(家族健診との併用は不可)	被保険者 被扶養者	全て	男女	20～74	全員	2,923	平成28年度利用実績:94人 HPにて人間ドック補助を掲載	医療機関と契約し、費用請求は本人ではなく健保組合	人間ドック補助の周知利用者が固定化	3
	3	インフルエンザ予防接種補助	【目的】予防接種補助 【概要】実費、年1回限り	被保険者 被扶養者	全て	男女	0～74	全員	1,791	加入者全員を対象に実施(10月～2月) 平成28年度利用者実績 被保険者:378人、被扶養者:139人	社員は集団接種、被扶養者にはシーズン直前に申請書・パンフレットを郵送して案内。	特になし	3
	3	常備薬の斡旋	【目的】常備薬の斡旋 【概要】業者を通じ医薬品斡旋組合補助4,000円、年1回	被保険者	全て	男女	20～74	全員	1,691	薬品卸会社製品の斡旋 パンフレットを社内配布 利用者:398名	注文品の送付先に自宅送付が可能	特になし	5

予算科目	注1) 事業分類	事業名	事業の目的および概要	対象者					事業費(千円)	振り返り			注2) 評価
				資格	対象事業所	性別	年齢	対象者		実施状況・時期	成功・推進要因	課題及び阻害要因	
	3	うがい薬の提供	【目的】 疾病予防 【概要】 インフルエンザ予防	被保険者	全て	男女	20～74	全員	167	福岡本社および各拠点に設置	事業主の協力もあり、設置・交換がスムーズに実施できる。	特になし	4
	5	禁煙チャレンジ	【目的】 禁煙の達成 【概要】 補助額：禁煙外来20,000円、禁煙補助薬10,000円	被保険者	全て	男女	20～65	全員	53	平成28年度達成者：3人 健診データに基づき、40歳以上の喫煙者に対し案内文書と禁煙パンフレット送付		禁煙チャレンジ利用者を増やすこと	3
	8	宿泊施設等利用補助	【目的】 心身のリフレッシュ 【概要】 補助額：3,000円を限度に年1回	被保険者 被扶養者	全て	男女	0～74	全員	193	平成28年度利用実績：66人 利用基準をHPに掲載		宿泊施設等の利用補助の周知不足 利用者が固定化	3
	8	マッサージルーム開設	【目的】 身体疲労の回復、心身のリフレッシュ 【概要】 マッサージルームを開設、希望者が希望時間帯を予約し「あん摩・マッサージ・指圧師」の資格を有するヘルスキーパーの施術を受ける	被保険者	一部の事業所	男女	20～65	全員	44	平成28年11月より、福岡本社にマッサージルームを開設 平成28年度利用者：延べ利用者数255人		福岡本社のみ開設	3
	8	野球観戦シート	【目的】 心身のリフレッシュ 【概要】 野球観戦シートを年間予約	被保険者 被扶養者	全て	男女	0～74	全員	3,564	平成28年度利用者：95人 社内イントラにてお知らせを掲載	衛生委員会や新入社員研修時での案内	リピーターが多く、新規利用者への働きかけが必要	4
	8	リゾート施設利用補助	【目的】 心身のリフレッシュ 【概要】 東京ディズニーリゾート利用の補助 補助額：3,000円、年3回	被保険者 被扶養者	全て	男女	0～74	全員	423	平成28年度利用者：141人 社内イントラにて補助のお知らせを掲載	衛生委員会や新入社員研修時での案内	リピーター多く、新規利用者がまだ少ないため全体的な働きかけが必要	3
体育奨励	8	スポーツ大会等参加費補助	【目的】 運動習慣向上 【概要】 マラソン大会等参加費の補助 補助額：5,000円を限度に年1回	被保険者 被扶養者	全て	男女	0～74	全員	15	平成28年度利用者：3名 HPにてスポーツ大会等参加補助を掲載		スポーツ大会等参加補助の周知不足	3
	5	ウォーキングプログラム	【目的】 運動習慣の定着 【概要】 健保連福岡連合会主催のウォーキングプログラム「あるろく」に参加	被保険者 被扶養者	全て	男女	0～74	全員	4	健保連福岡連合会主催のウォーキングイベントに参加 平成28年度エントリー数：8人	参加者のうち希望者に歩数計貸与	期限イベントのため、終了後の対応を考える必要がある。	2


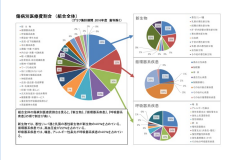
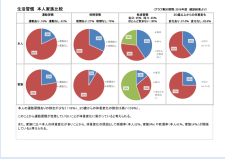



注1) 1. 職場環境の整備 2. 加入者への意識づけ 3. 健康診査 4. 保健指導 5. 健康教育 6. 健康相談 7. 訪問指導 8. その他

注2) 1. 39%以下 2. 40%以上 3. 60%以上 4. 80%以上 5. 100%

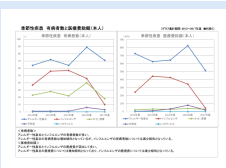
事業名	事業の目的および概要	対象者			振り返り			共同 実施
		資格	性別	年齢	実施状況・時期	成功・推進要因	課題及び阻害要因	
事業主の取組								
体育奨励	-	-	-	~	-	-	-	-

STEP1-3 基本分析

登録済みファイル一覧

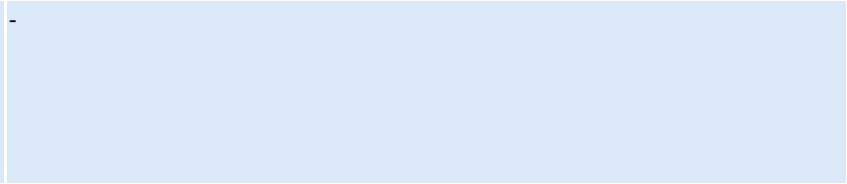
記号	ファイル画像	タイトル	カテゴリ	コメント
ア		医療費総額と1人当たり医療費	医療費・患者数分析	-
イ		傷病別医療費	医療費・患者数分析	-
ウ		生活習慣病	健康リスク分析	-
エ		生活習慣病 有病者数と医療費傾向	医療費・患者数分析	-
オ		悪性新生物 有病者数と医療費傾向	医療費・患者数分析	-
カ		循環器系疾患 有病者数と医療費傾向	医療費・患者数分析	-

キ

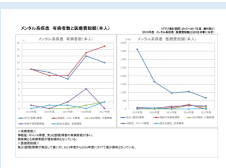


季節性疾患 有病者数と医療費傾向

医療費・患者数分析

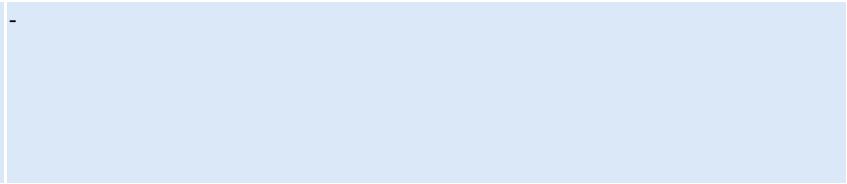


ク



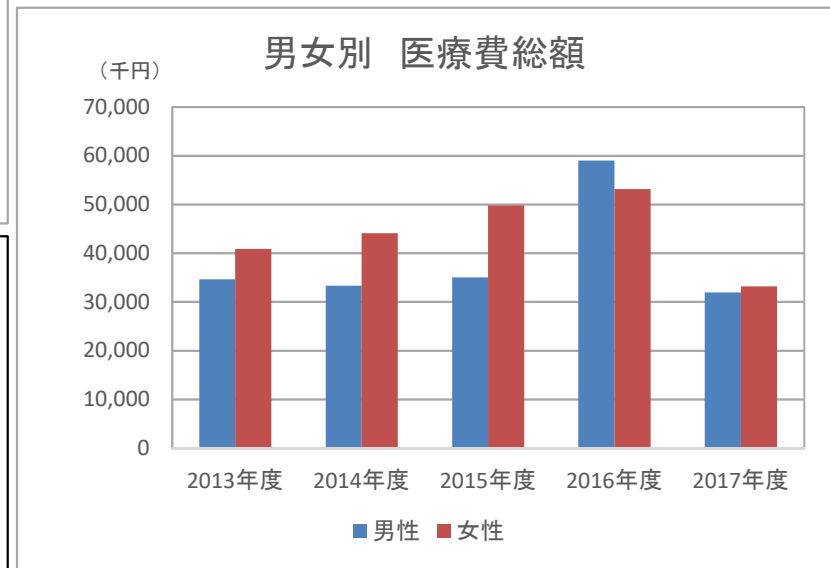
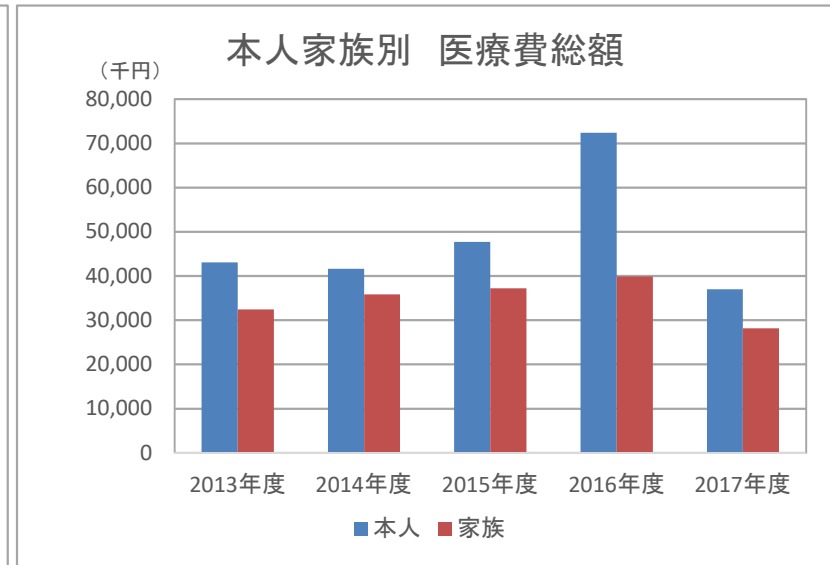
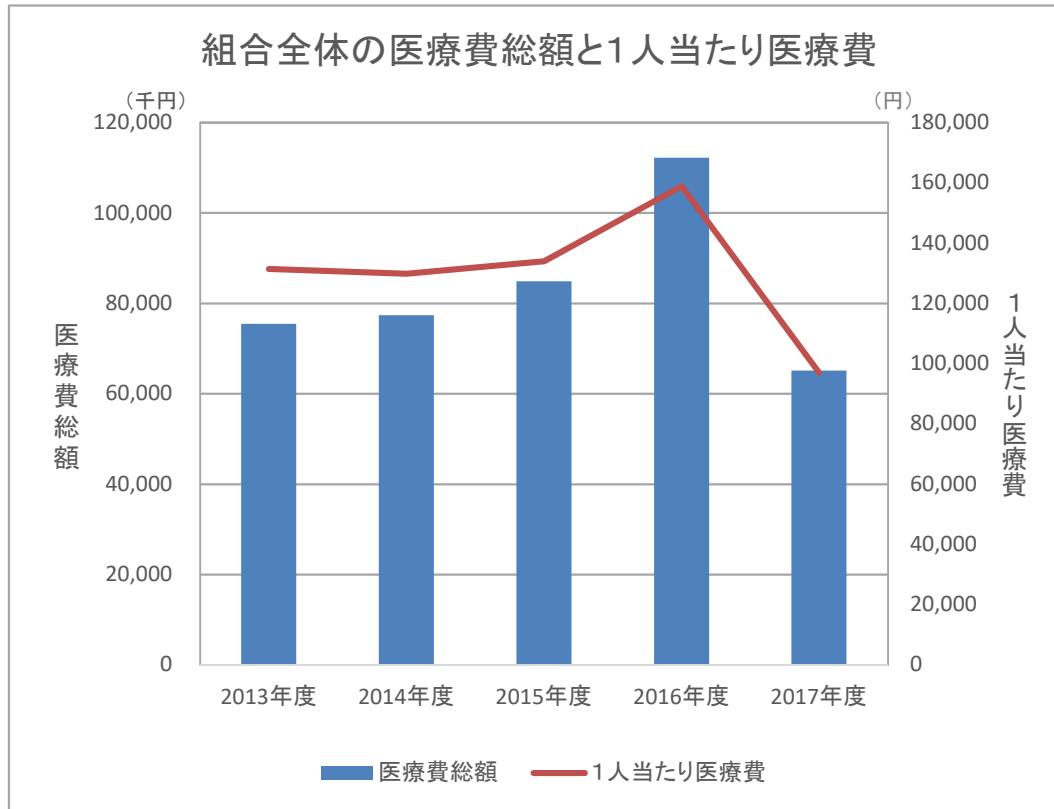
メンタル系疾患 有病者数と医療費傾向

医療費・患者数分析



医療費総額と1人当たり医療費

(グラフ集計期間:2013年度~2017年度)
 (1人当たり医療費:2013年度~2017年度)



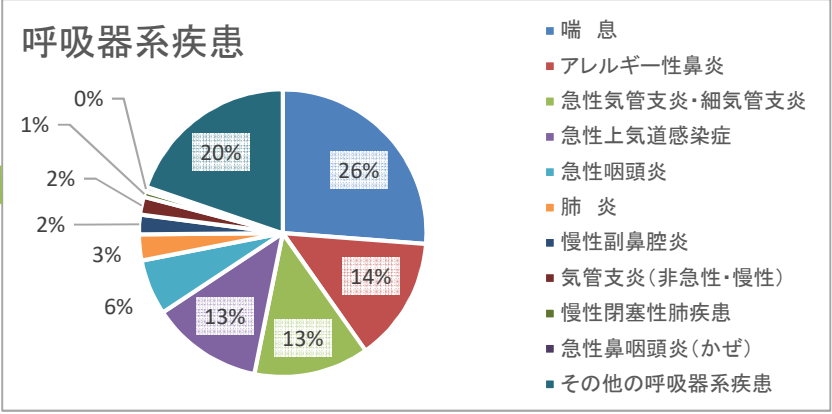
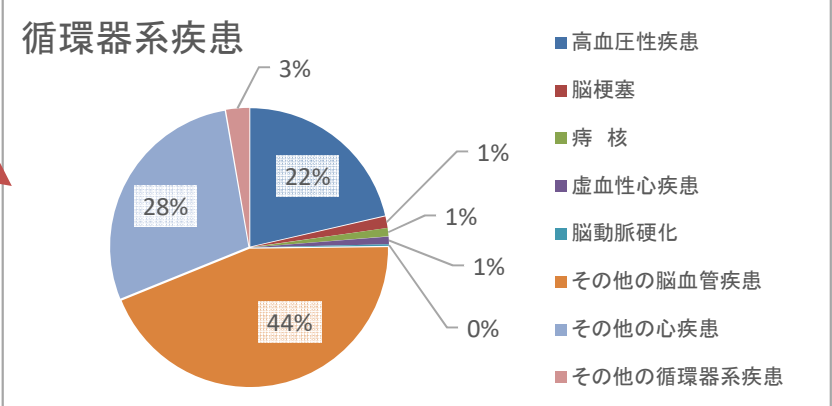
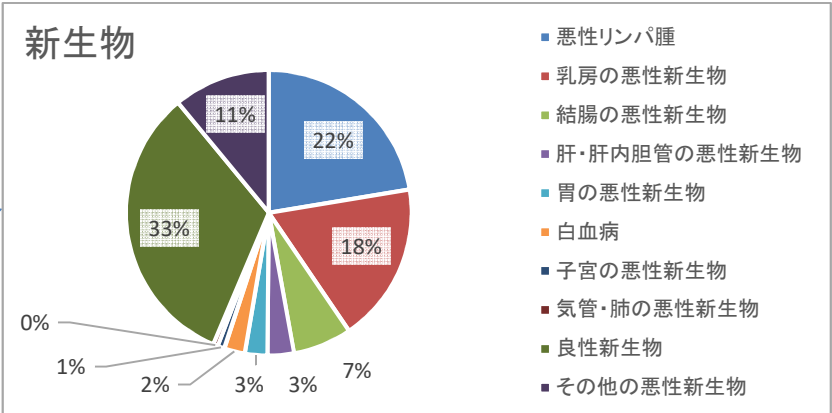
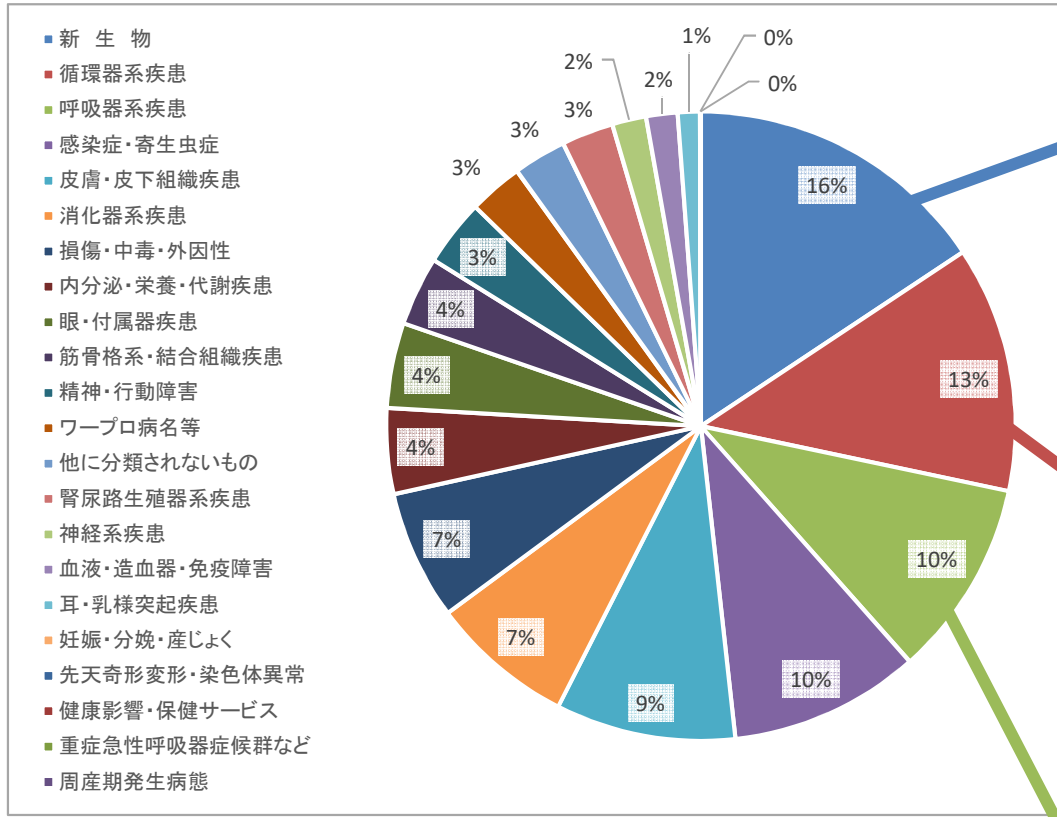
組合全体を見ると、医療費総額・1人当たり医療費ともに増加傾向にある。

本人家族別にみると、本人家族ともに医療費が増加傾向にある。

男女別にみると、女性の医療費が徐々に増加しているのに対し、男性の医療費は急激に増加している。

傷病別医療費割合 (組合全体)

(グラフ集計期間:2016年度 歯科除く)



組合全体の傷病別医療費割合を見ると、『新生物』、『循環器系疾患』、『呼吸器系疾患』の順で割合が高い。

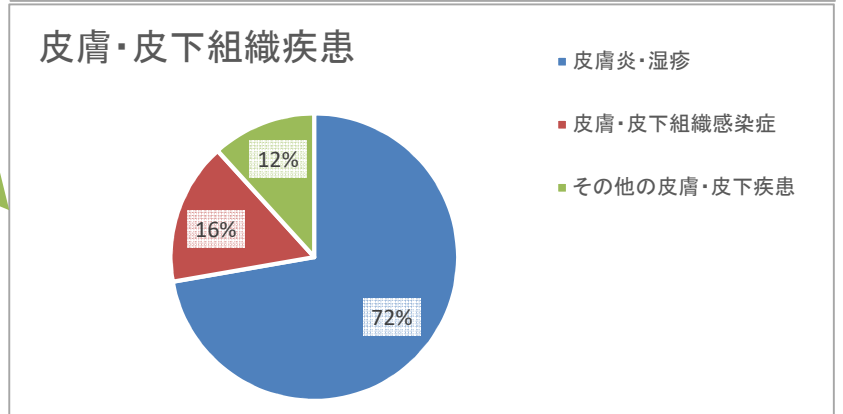
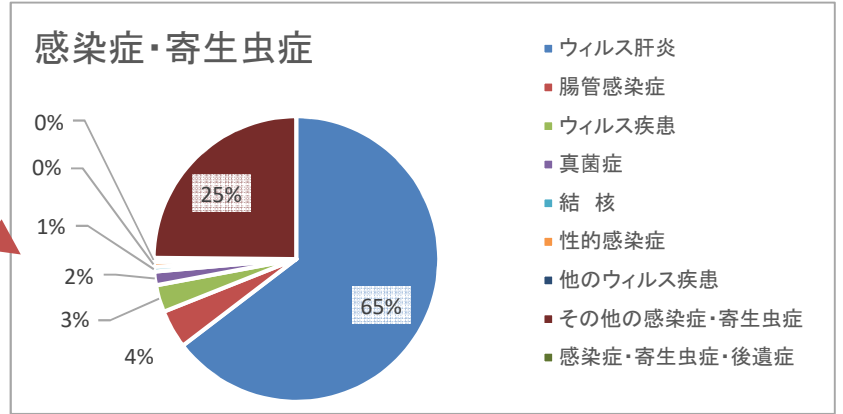
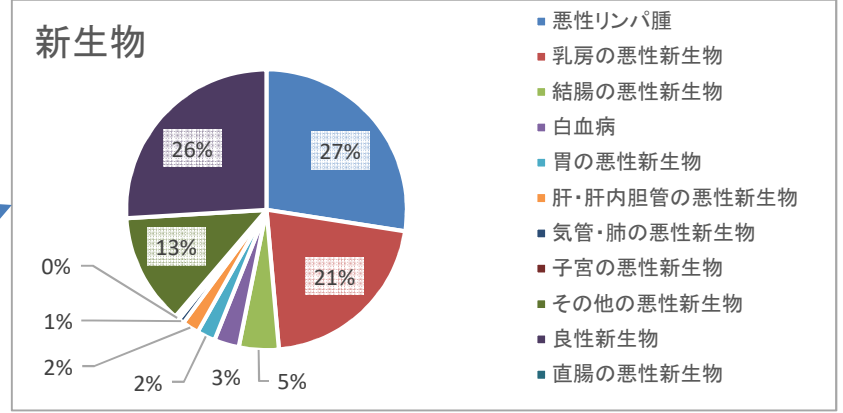
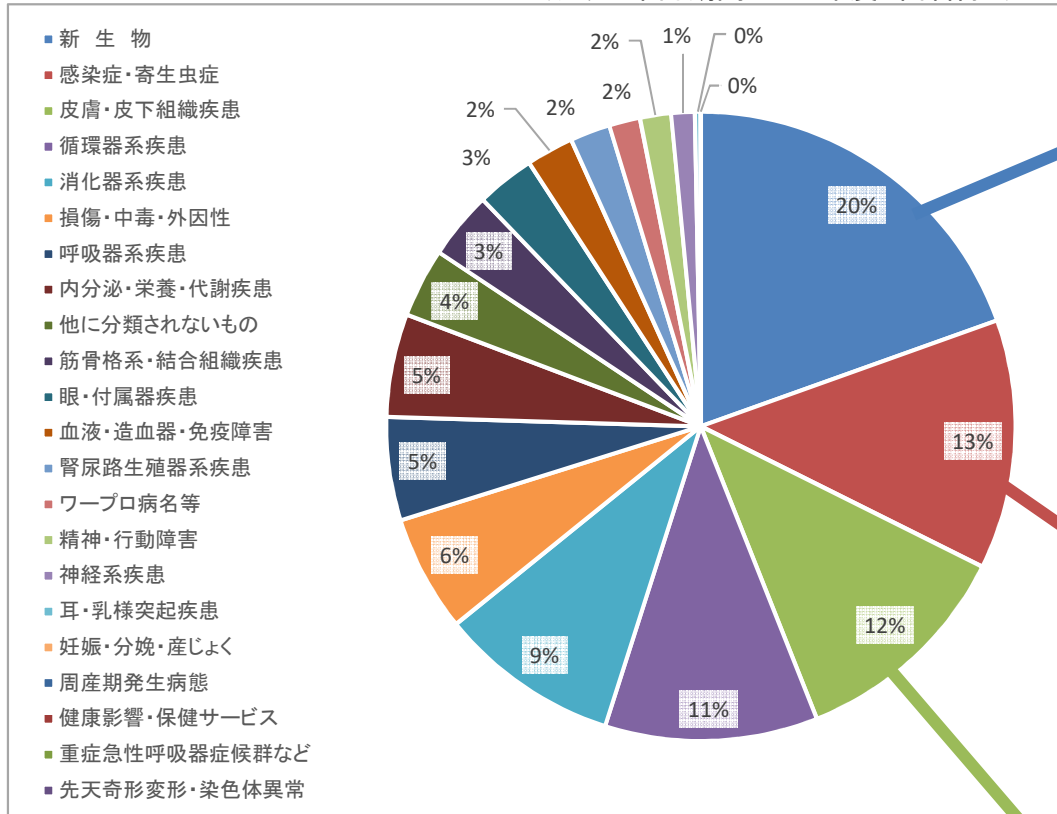
新生物では、悪性リンパ腫と乳房の悪性新生物が新生物の40%を占めている。

循環器系疾患では、高血圧症が22%を占めている。

呼吸器系疾患では、喘息、アレルギー性鼻炎が呼吸器系疾患の40%を占めている。

傷病別医療費割合 (被保険者のみ)

(グラフ集計期間:2016年度 歯科除く)



被保険者の傷病別医療費割合を見ると、『新生物』、『感染症・寄生虫症』、『皮膚・皮下組織疾患』の順で割合が高い。

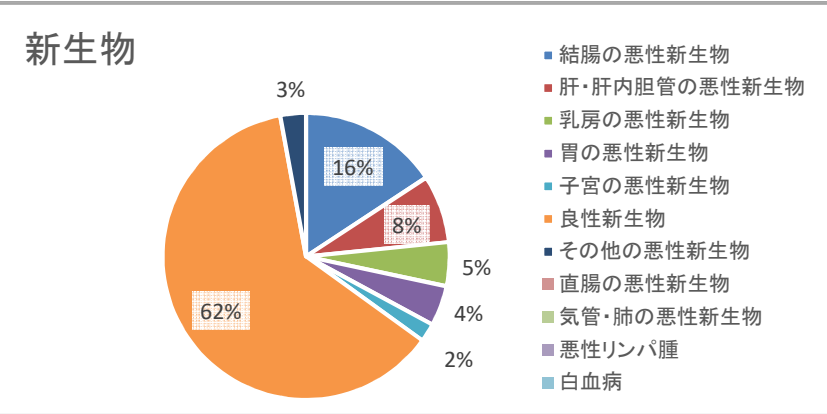
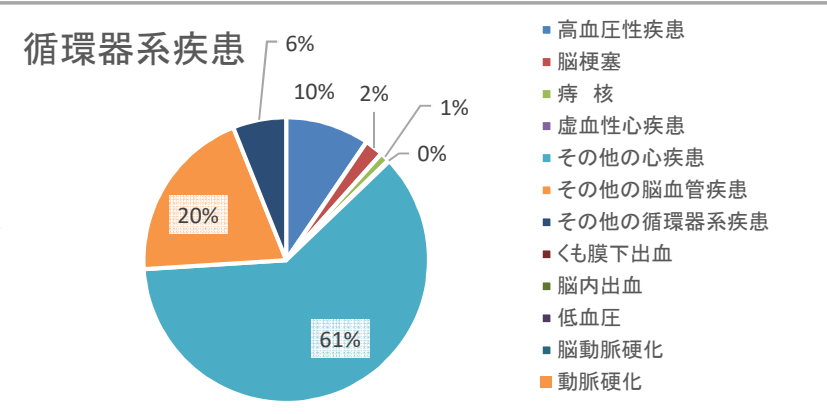
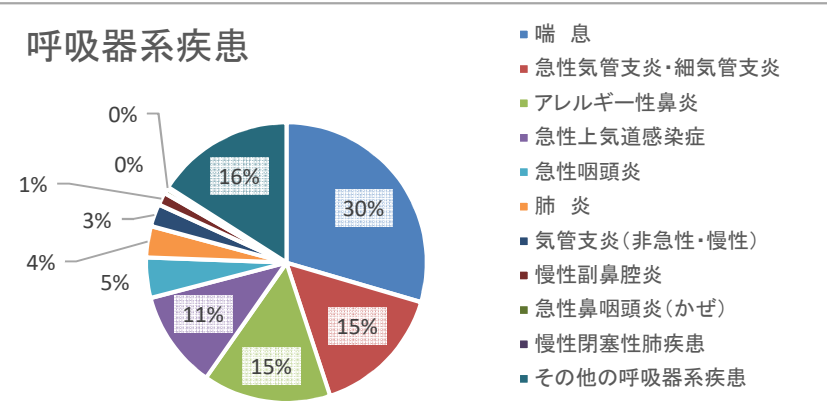
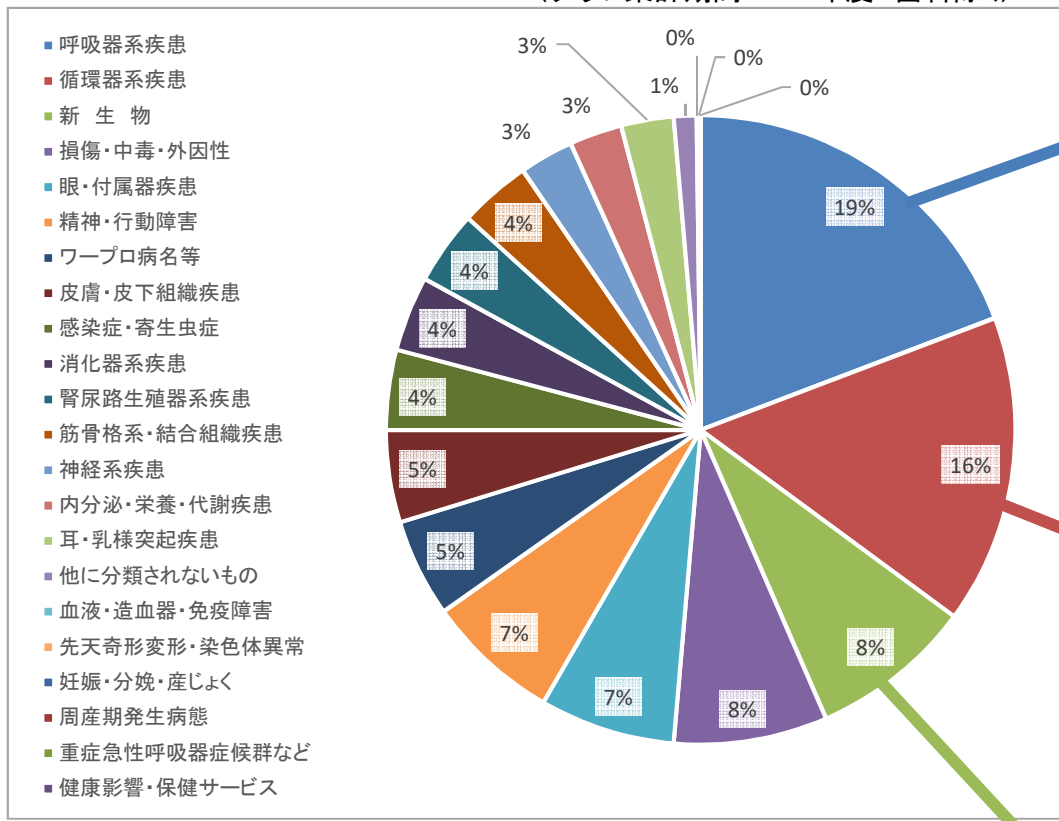
新生物では、悪性リンパ腫と乳房の悪性新生物が新生物の48%を占めている。

感染症・寄生虫症では、ウイルス肝炎が65%を占めている。

皮膚・皮下組織疾患では、皮膚炎・湿疹が72%を占めている。

傷病別医療費割合 (被扶養者のみ)

(グラフ集計期間:2016年度 歯科除く)



被扶養者の傷病別医療費割合を見ると、『呼吸器系疾患』、『循環器系疾患』、『新生物』の順で割合が高い。

呼吸器系疾患では、喘息(30%)と急性気管支炎・細気管支炎(15%)、アレルギー性鼻炎(15%)が呼吸器系疾患の60%を占めている。

循環器系疾患では、高血圧疾患が10%、その他の心疾患が61%を占めている。

新生物では、良性新生物が62%と最も割合が高い。消化器系の悪性新生物(結腸・肝・胃)は28%、女性特有の悪性新生物(乳房・子宮)は7%となっている。

生活習慣 本人家族比較

(グラフ集計期間:2016年度 健診結果より)

	運動習慣 運動あり:19% 運動なし:81%	喫煙習慣 喫煙あり:27% 喫煙なし:73%	飲酒習慣 毎日:35% 時々:35% ほとんど飲まない:30%	20歳以上からの体重変化 変化あり:37.4% 変化なし:62.6%
本人	<ul style="list-style-type: none"> ■ 運動あり (18%) ■ 運動なし (82%) 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 喫煙あり (32%) ■ 喫煙なし (68%) 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 毎日 (41%) ■ 時々 (36%) ■ ほとんど飲まない (23%) 	<ul style="list-style-type: none"> ■ はい (39%) ■ いいえ (61%)
家族	<ul style="list-style-type: none"> ■ 運動あり (22%) ■ 運動なし (78%) 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 喫煙あり (9%) ■ 喫煙なし (91%) 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 毎日 (14%) ■ 時々 (31%) ■ ほとんど飲まない (55%) 	<ul style="list-style-type: none"> ■ はい (25%) ■ いいえ (75%)

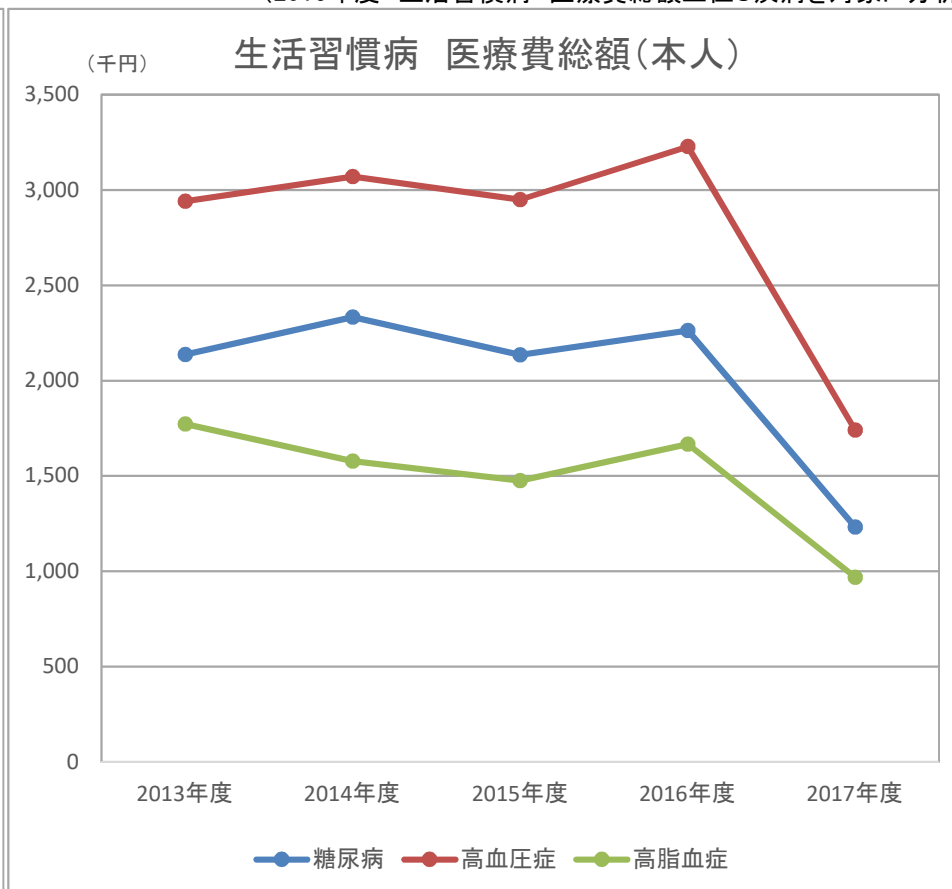
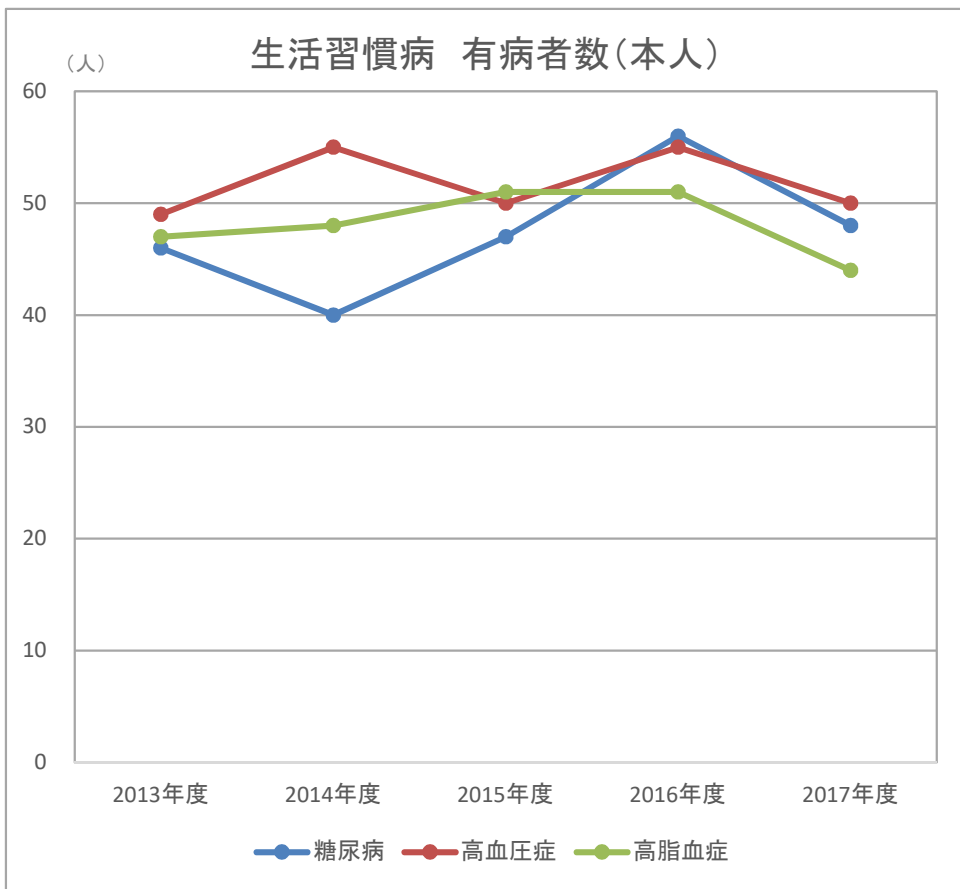
本人の運動習慣ありの割合が少なく(18%)、20歳からの体重変化の割合は高い(39%)。

このことから運動習慣が定着していないことが体重変化に繋がっていると考えられる。

また、家族に比べ本人の体重変化が多いことから、体重変化の原因として喫煙率(本人32%、家族9%)や飲酒率(本人41%、家族14%)が関係していると考えられる。

生活習慣病 有病者数と医療費総額(本人)

(グラフ集計期間:2013~2017年度 歯科除く)
(2016年度 生活習慣病 医療費総額上位3疾病を対象に分析)



<有病者数>

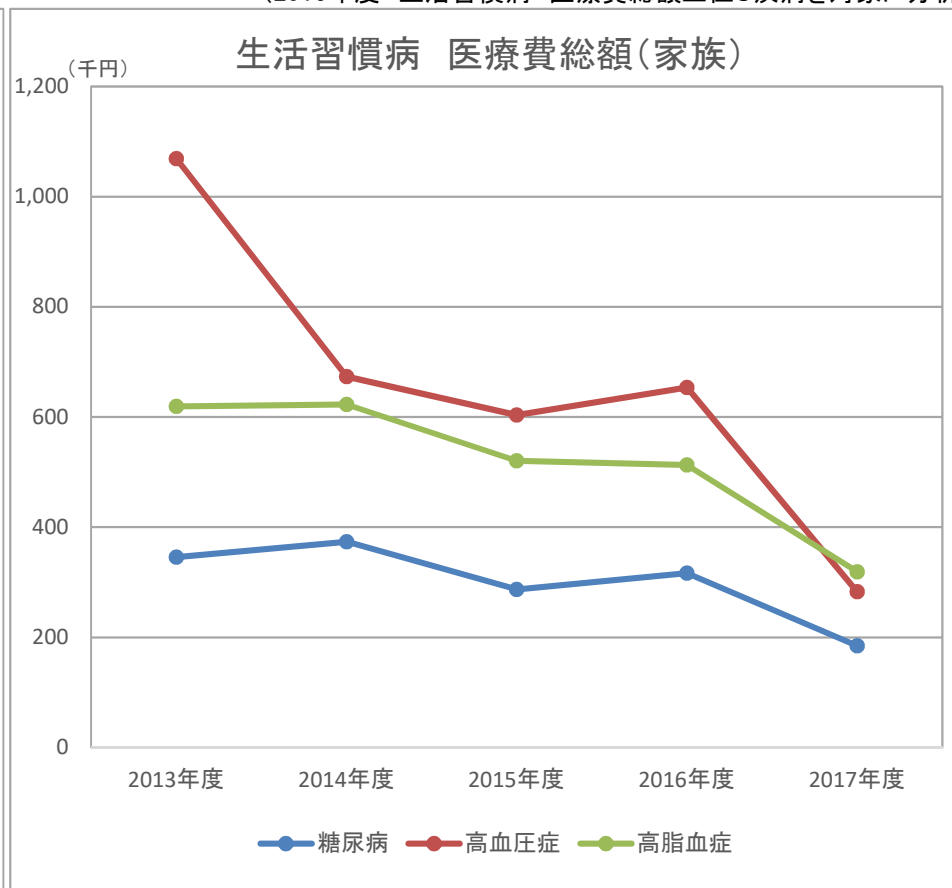
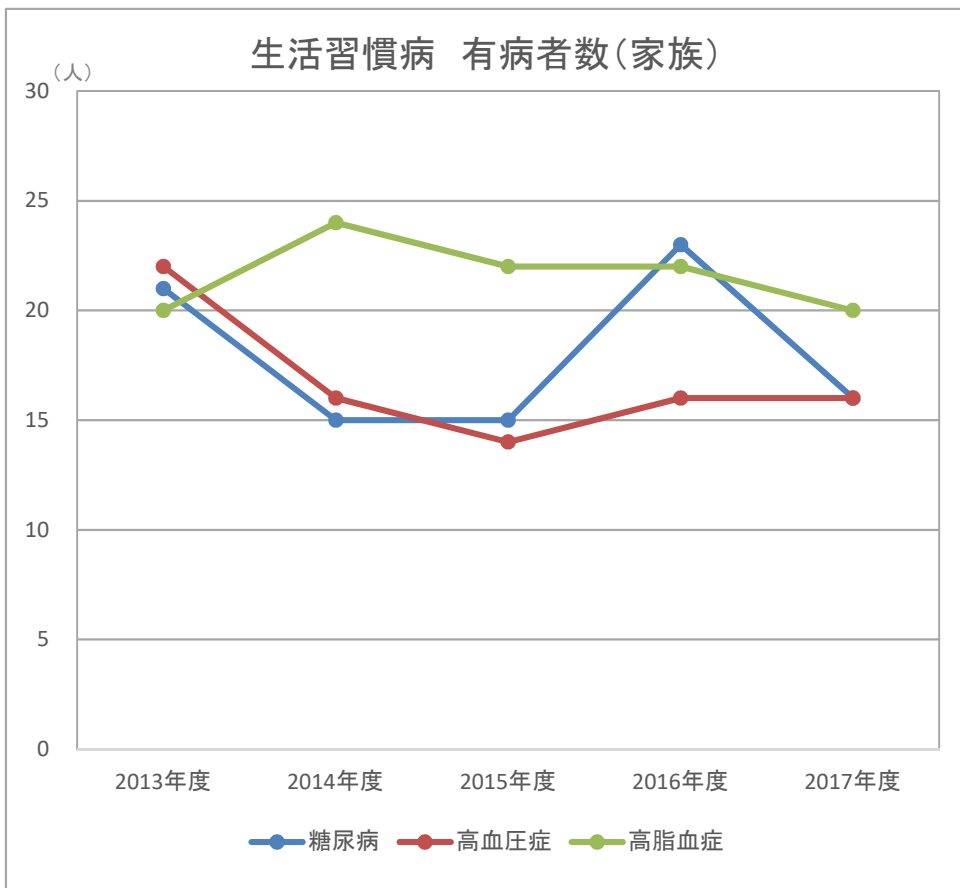
2014年度から2016年度にかけて糖尿病の有病者数が増加傾向となっている。
高血圧症・高脂血症については、若干増加しているがほぼ横ばいとなっている。

<医療費総額>

高血圧症の医療費が最も高い。
高血圧症の医療費は増加傾向にあるが、糖尿病・高脂血症はほぼ横ばいとなっている。

生活習慣病 有病者数と医療費総額(家族)

(グラフ集計期間:2013~2017年度 歯科除く)
(2016年度 生活習慣病 医療費総額上位3疾病を対象に分析)



<有病者数>

高脂血症の有病者数は減少傾向となっている。

糖尿病・高血圧症については、2013年度に比べると減少しているが2014年度から見ると糖尿病は増加、高血圧症は横ばいとなっている。

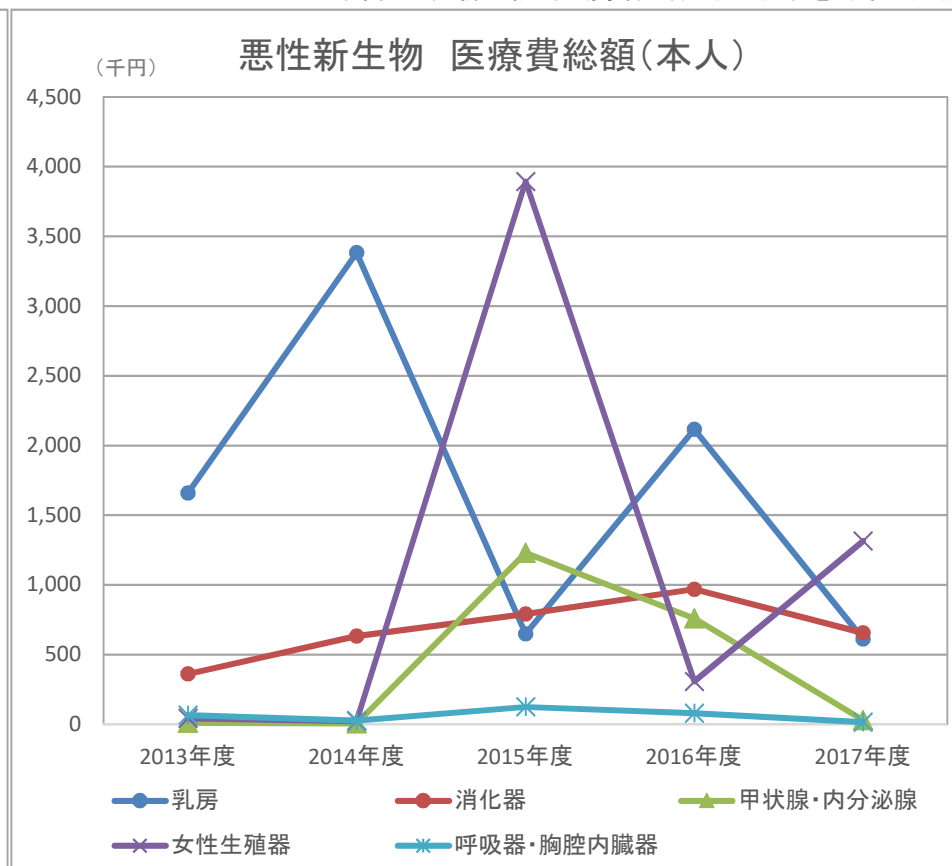
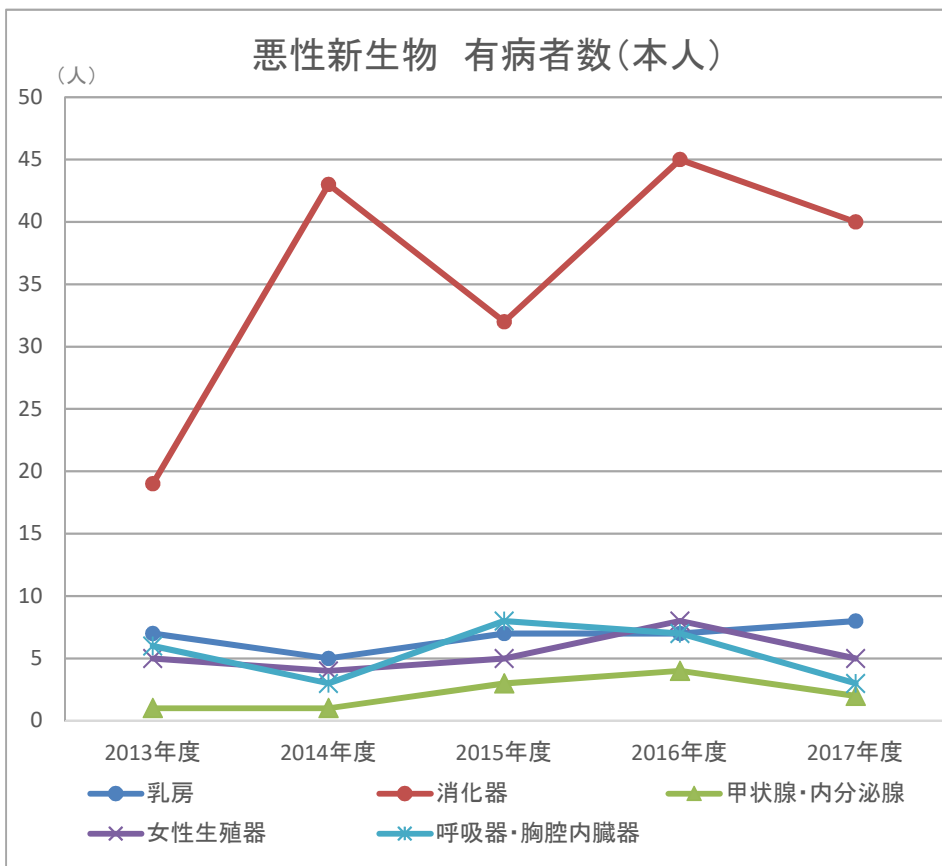
<医療費総額>

高血圧症の医療費が最も高い。

糖尿病、高血圧症、高脂血症全て減少傾向となっている。

悪性新生物 有病者数と医療費総額(本人)

(グラフ集計期間:2013~2017年度 歯科除く)
(2016年度 悪性新生物 医療費総額上位5疾病を対象に分析)



<有病者数>

消化器の悪性新生物の有病者数が突出して高い。

<医療費総額>

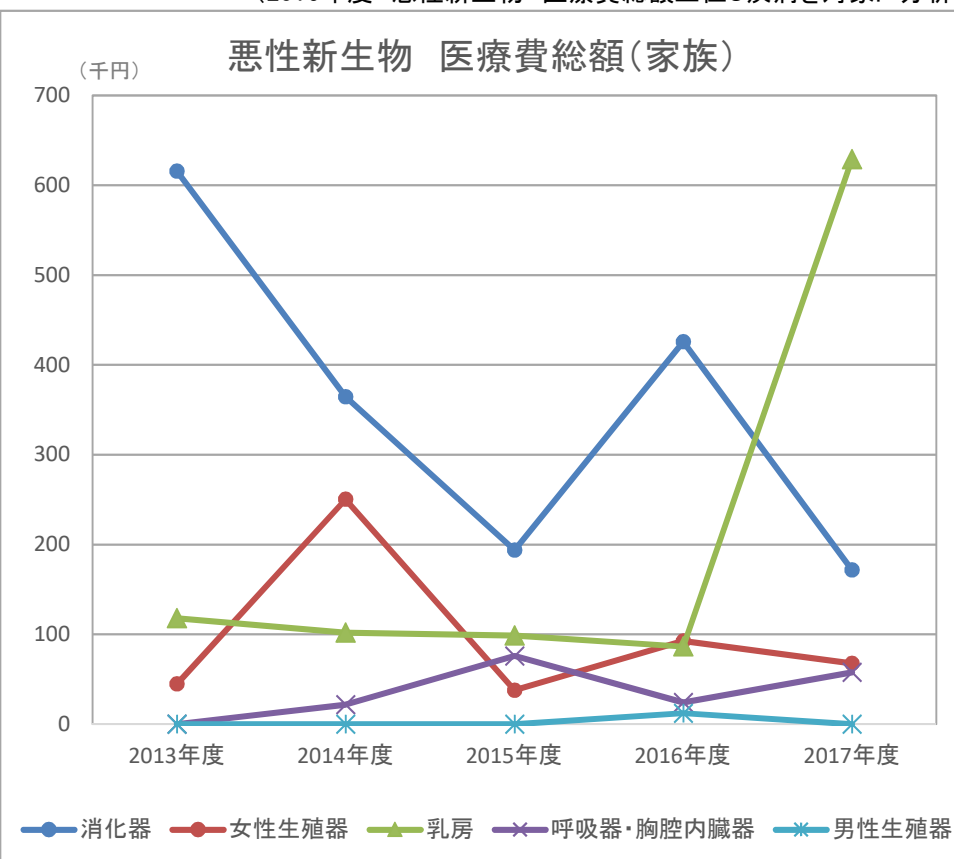
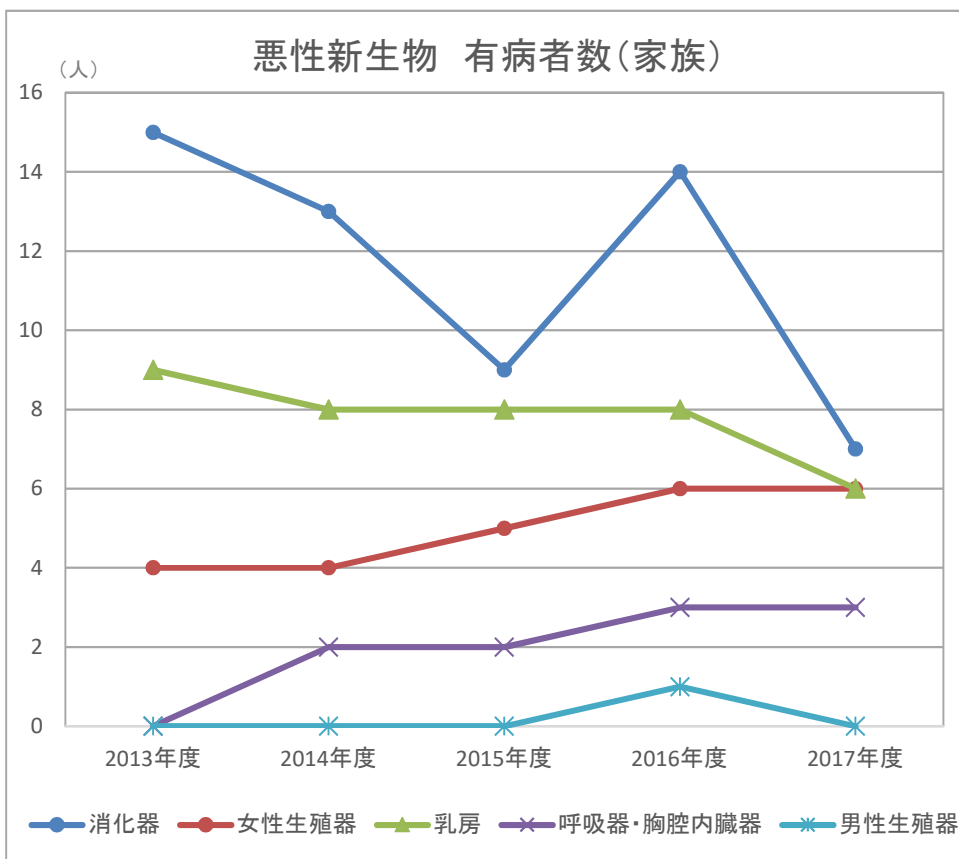
消化器の悪性新生物の医療費が増加傾向にある。

乳房の悪性新生物や女性生殖器の悪性新生物といった女性特有の悪性新生物の医療費が医療費総額の上位を占めている。

2013年度から2016年度にかけて乳房の悪性新生物は減少しているが、女性生殖器の悪性新生物は増加している。

悪性新生物 有病者数と医療費総額(家族)

(グラフ集計期間:2013~2017年度 歯科除く)
 (2016年度 悪性新生物 医療費総額上位5疾病を対象に分析)



<有病者数>

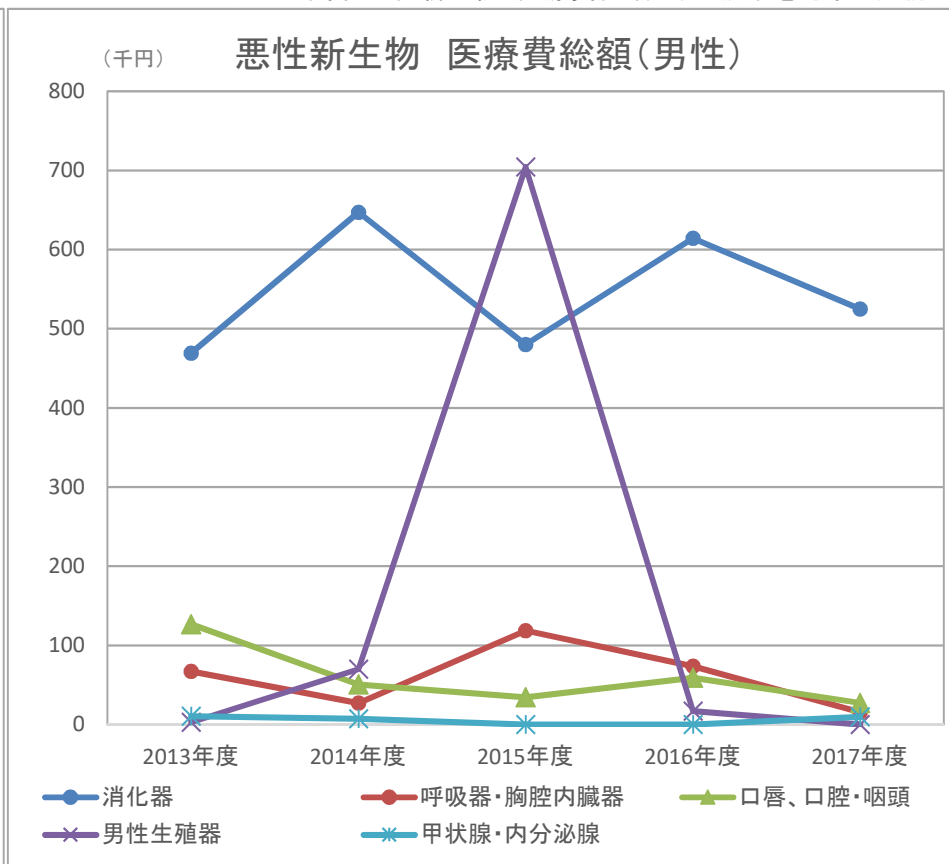
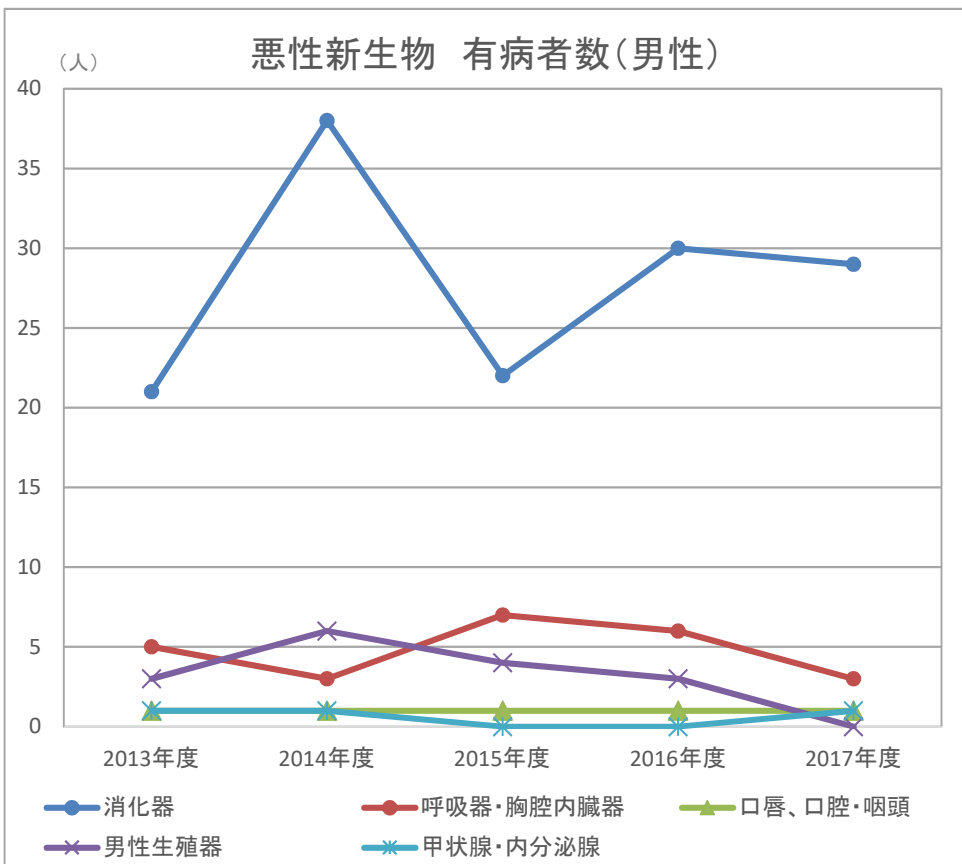
各年度で消化器の悪性新生物の有病者数が最も多いが、有病者数の推移としては有病者数は減少傾向となっている。一方で、女性生殖器の悪性新生物、呼吸器・胸腔内臓器の悪性新生物は増加傾向となっている。

<医療費総額>

2016年度までをみると消化器の悪性新生物の医療費が最も高いが、医療費の推移としては減少傾向となっている。乳房の悪性新生物は2016年度まで減少傾向だったが、2017年度で突出して高くなっている。

悪性新生物 有病者数と医療費総額(男性)

(グラフ集計期間:2013~2017年度 歯科除く)
(2016年度 悪性新生物 医療費総額上位5疾病を対象に分析)



<有病者数>

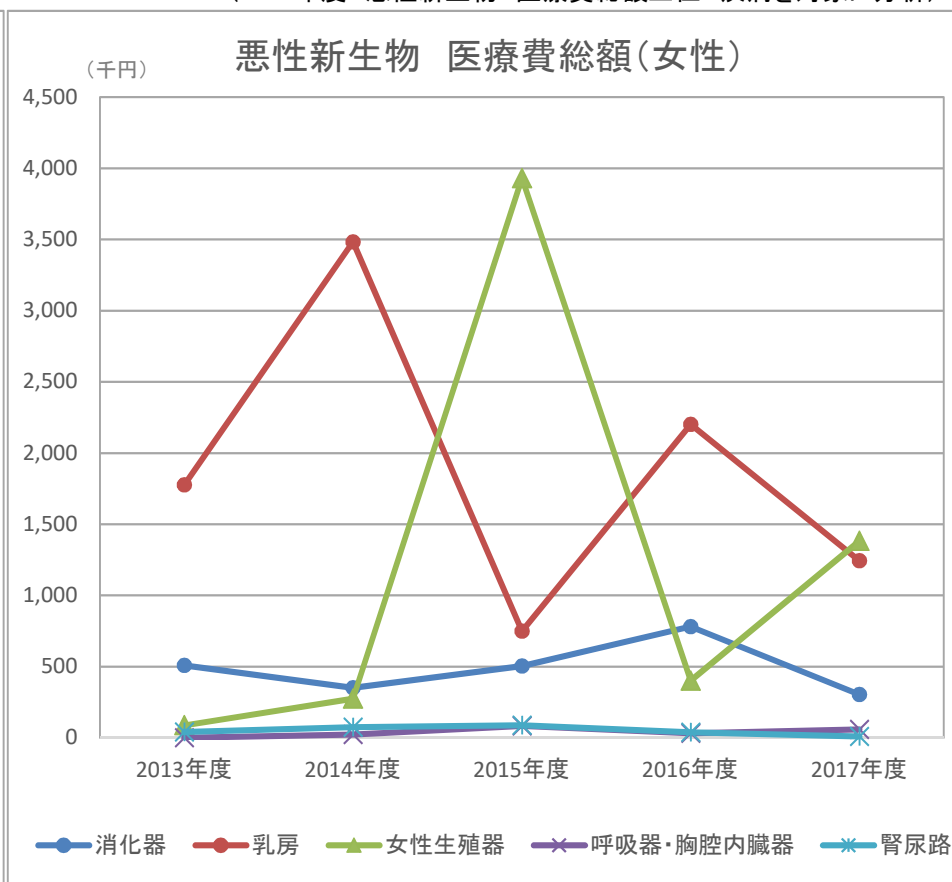
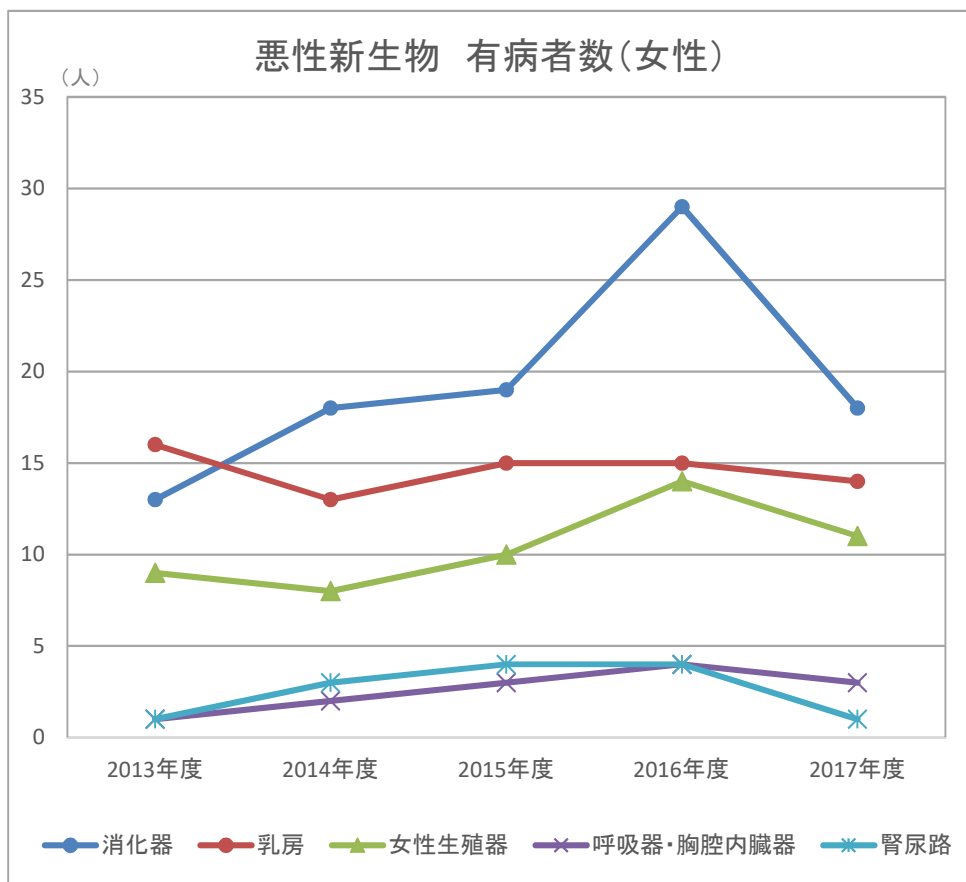
消化器の悪性新生物の有病者数が突出して高い。有病者数の推移としては増加傾向となっている。

<医療費総額>

消化器の悪性新生物の医療費が突出して高い。医療費総額の推移としては増加傾向となっている。

悪性新生物 有病者数と医療費総額(女性)

(グラフ集計期間:2013~2017年度 歯科除く)
(2016年度 悪性新生物 医療費総額上位5疾病を対象に分析)



<有病者数>

消化器の悪性新生物、乳房の悪性新生物、女性生殖器の悪性新生物の順で有病者数が多い。

乳房の悪性新生物の有病者数の推移は横ばいとなっているが、消化器の悪性新生物、女性生殖器の悪性新生物の有病者数は増加傾向となっている。

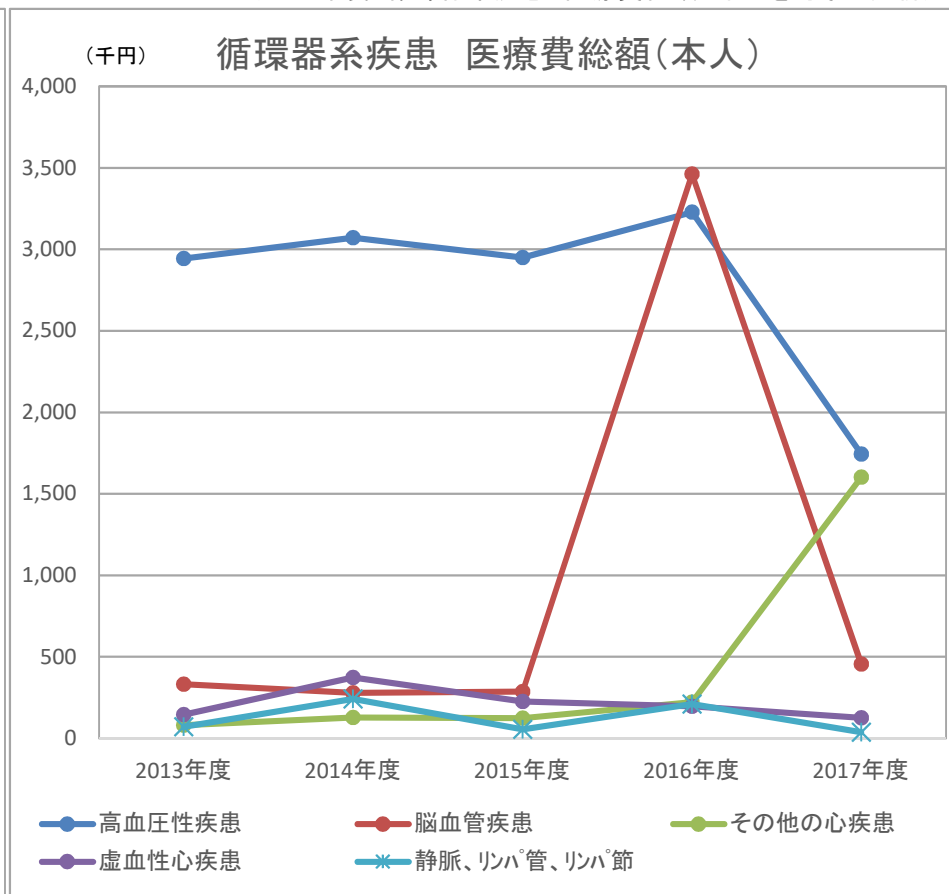
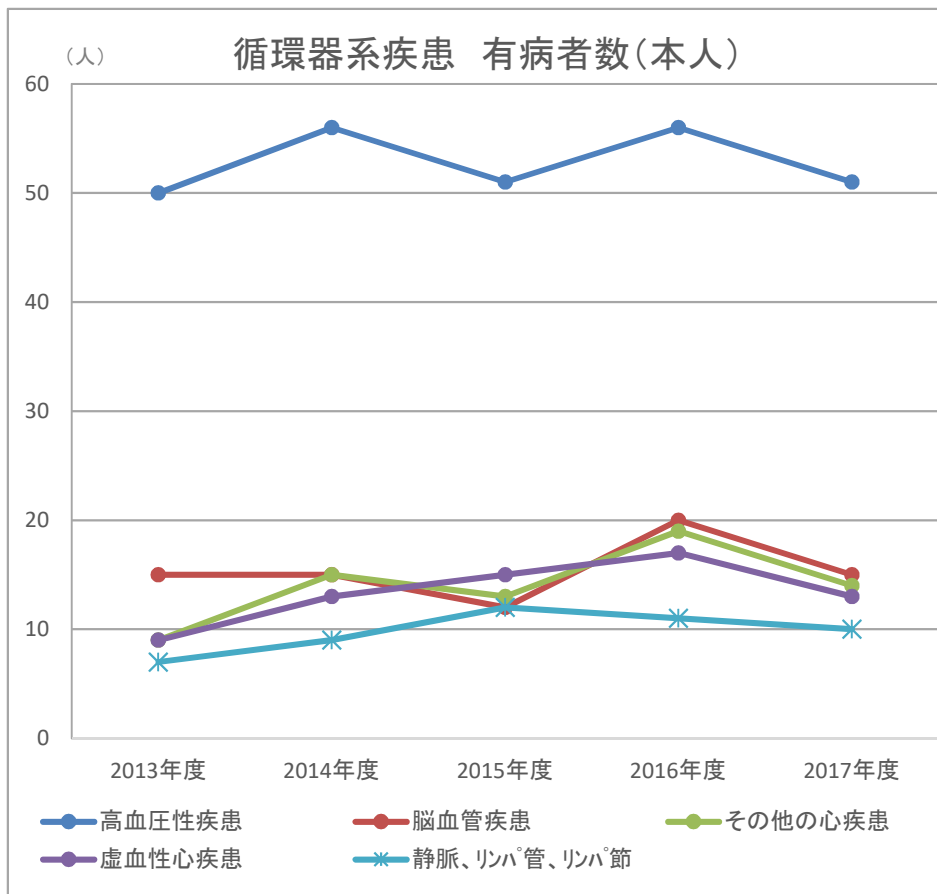
<医療費総額>

乳房の悪性新生物と女性生殖器の悪性新生物の医療費が高い。

乳房の悪性新生物の医療費は減少傾向となっているが、女性生殖器の悪性新生物の医療費は増加傾向となっている。

循環器系疾患 有病者数と医療費総額(本人)

(グラフ集計期間:2013~2017年度 歯科除く)
(2016年度 循環器系疾患 医療費総額上位5を対象に分析)



<有病者数>

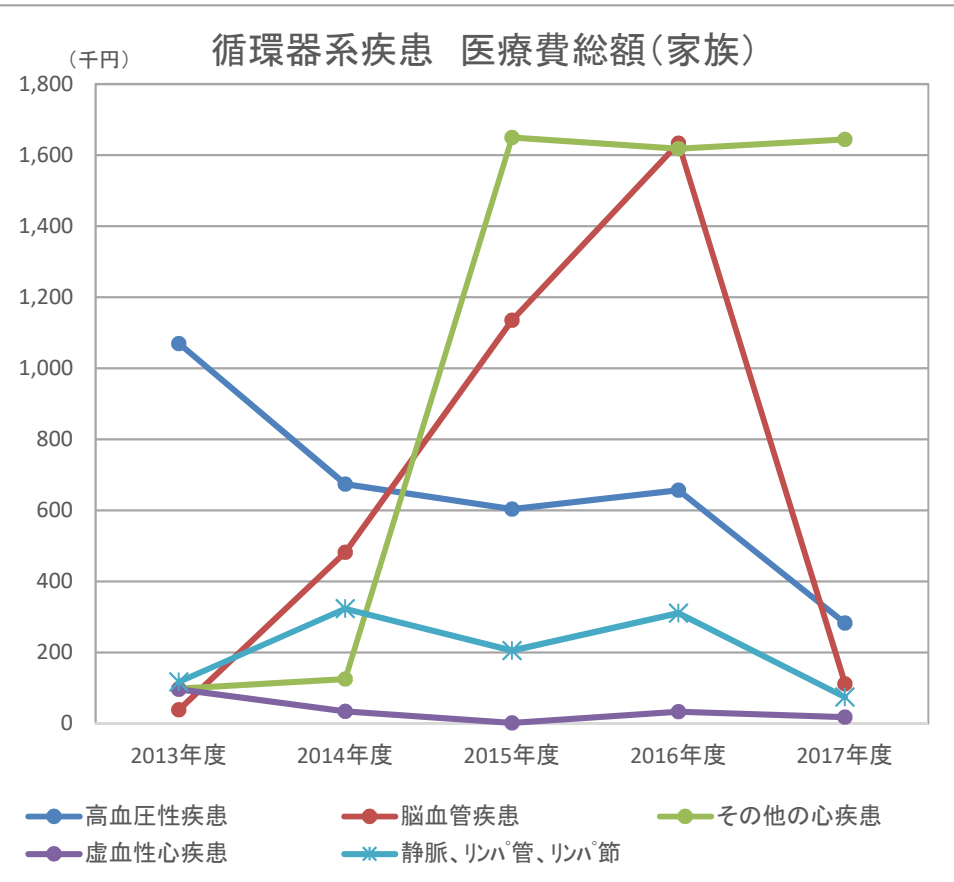
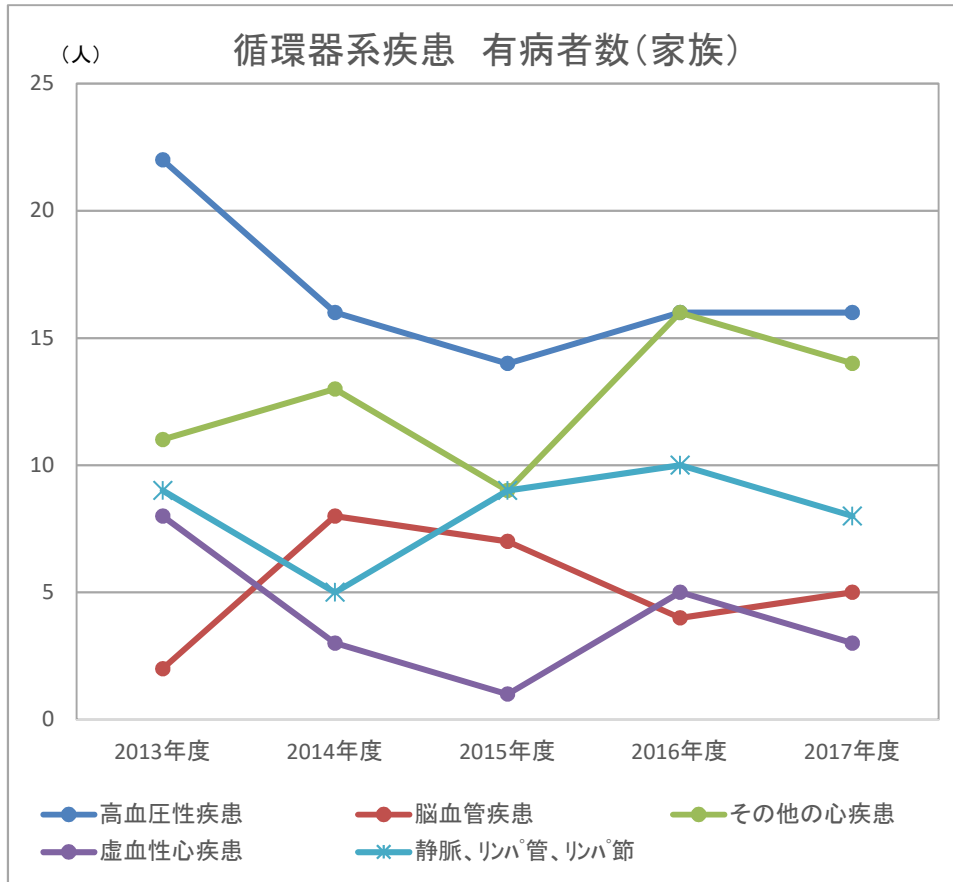
高血圧性疾患の有病者数が突出して高い。有病者数の推移としては、横ばいとなっている。

<医療費総額>

高血圧性疾患の医療費が突出して高い。医療費の推移としては、若干の増加傾向となっている。

循環器系疾患 有病者数と医療費総額(家族)

(グラフ集計期間:2013~2017年度 歯科除く)
(2016年度 循環器系疾患 医療費総額上位5を対象に分析)



<有病者数>

高血圧性疾患、その他の心疾患の有病者数が多い。

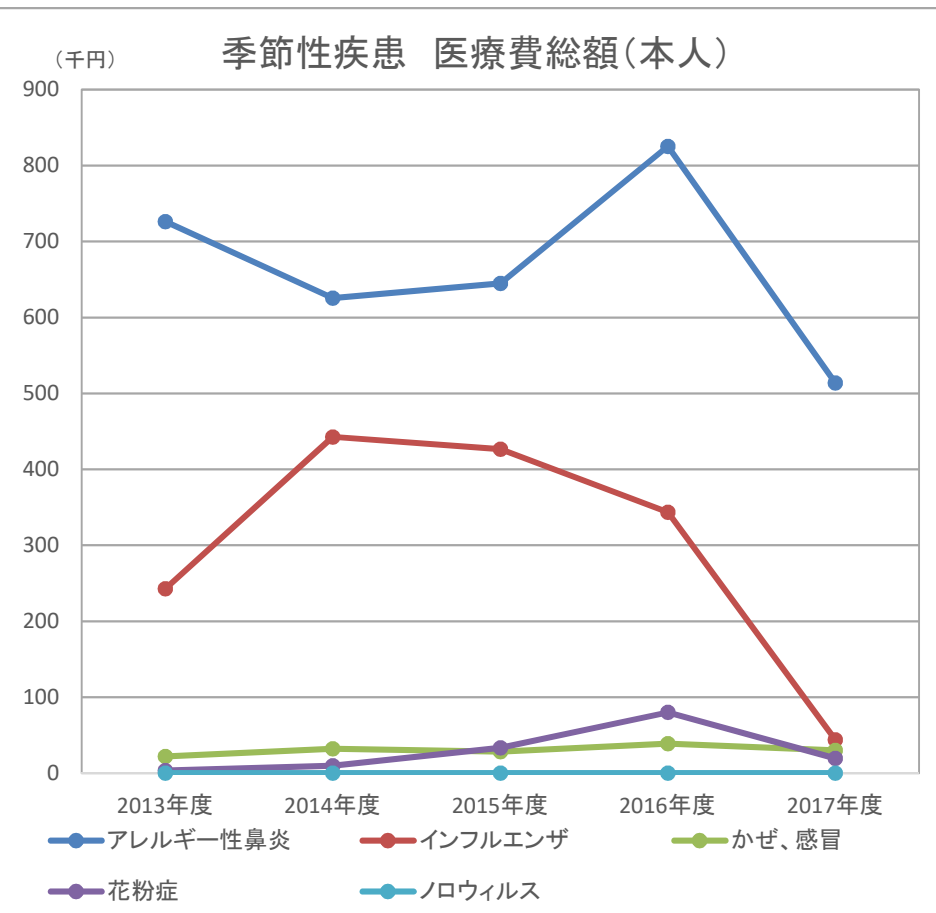
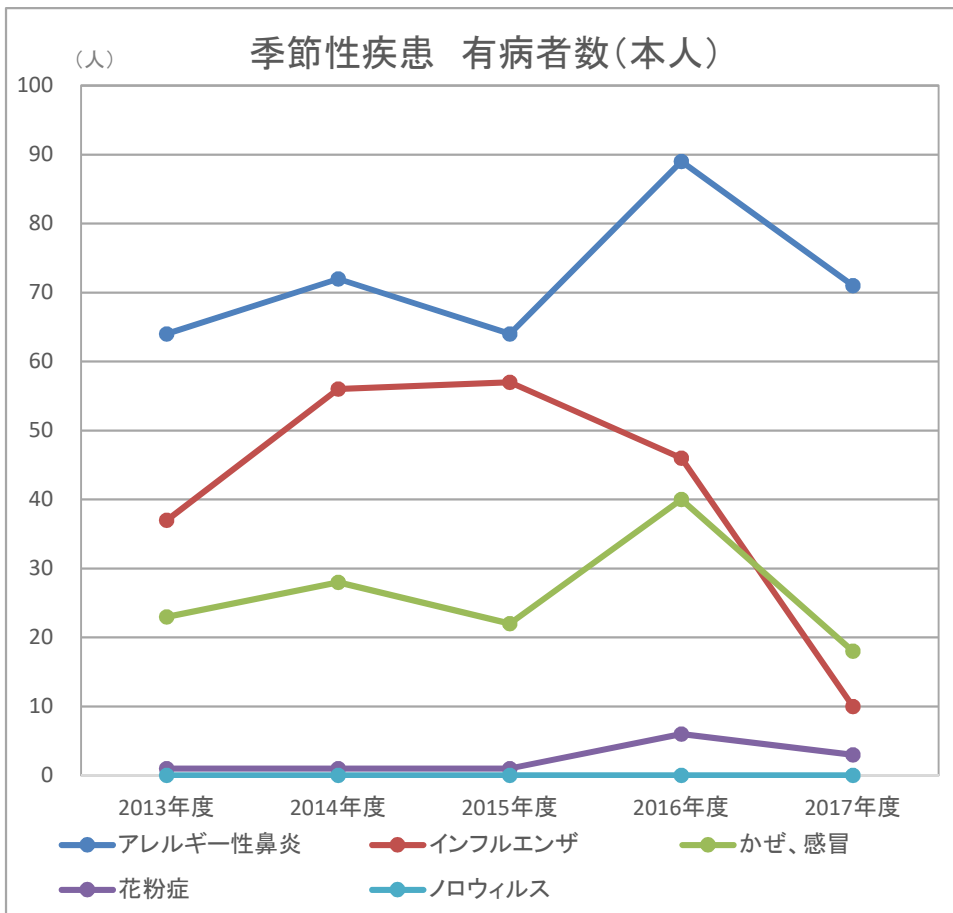
高血圧性疾患の有病者数は減少傾向となっているが、その他の心疾患・静脈、リンパ管、リンパ節について有病者数が増加傾向となっている。

<医療費総額>

その他の心疾患、脳血管疾患の医療費が高い。両疾患とも医療費が増加傾向となっている。特に脳血管疾患は年々増加している。

季節性疾患 有病者数と医療費総額(本人)

(グラフ集計期間:2013~2017年度 歯科除く)



<有病者数>

アレルギー性鼻炎とインフルエンザの有病者数が多い。

アレルギー性鼻炎の有病者数は増加傾向となっているが、インフルエンザの有病者数については減少傾向となっている。

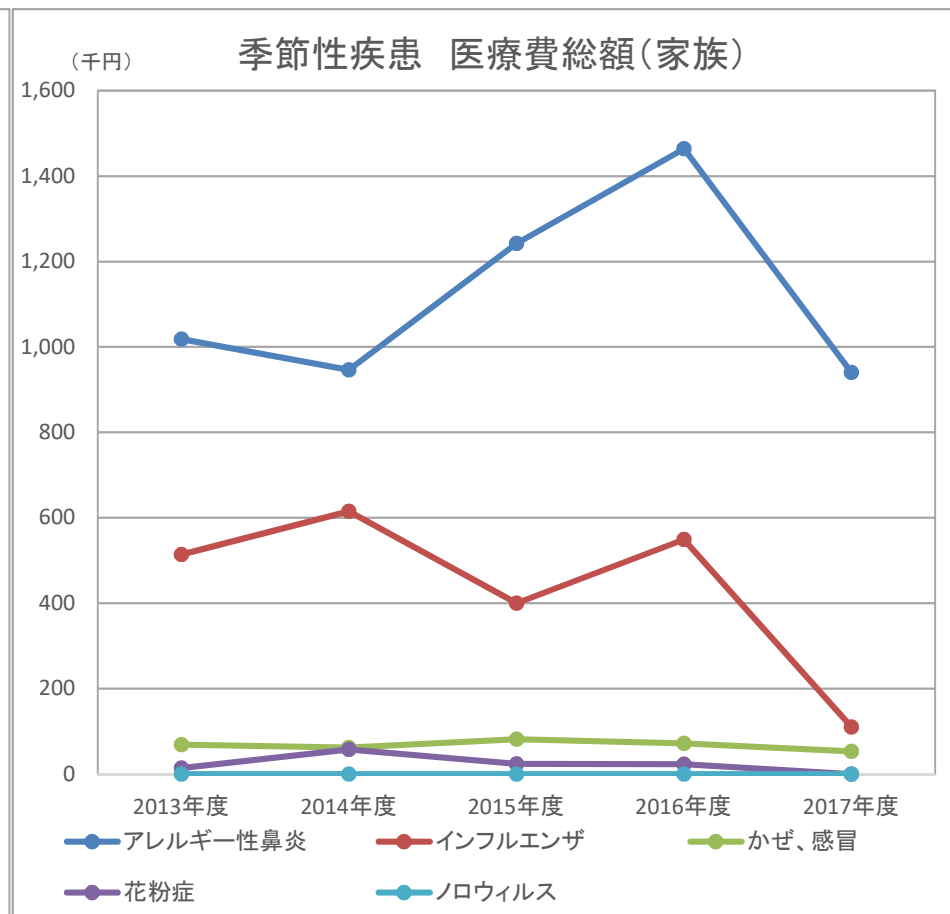
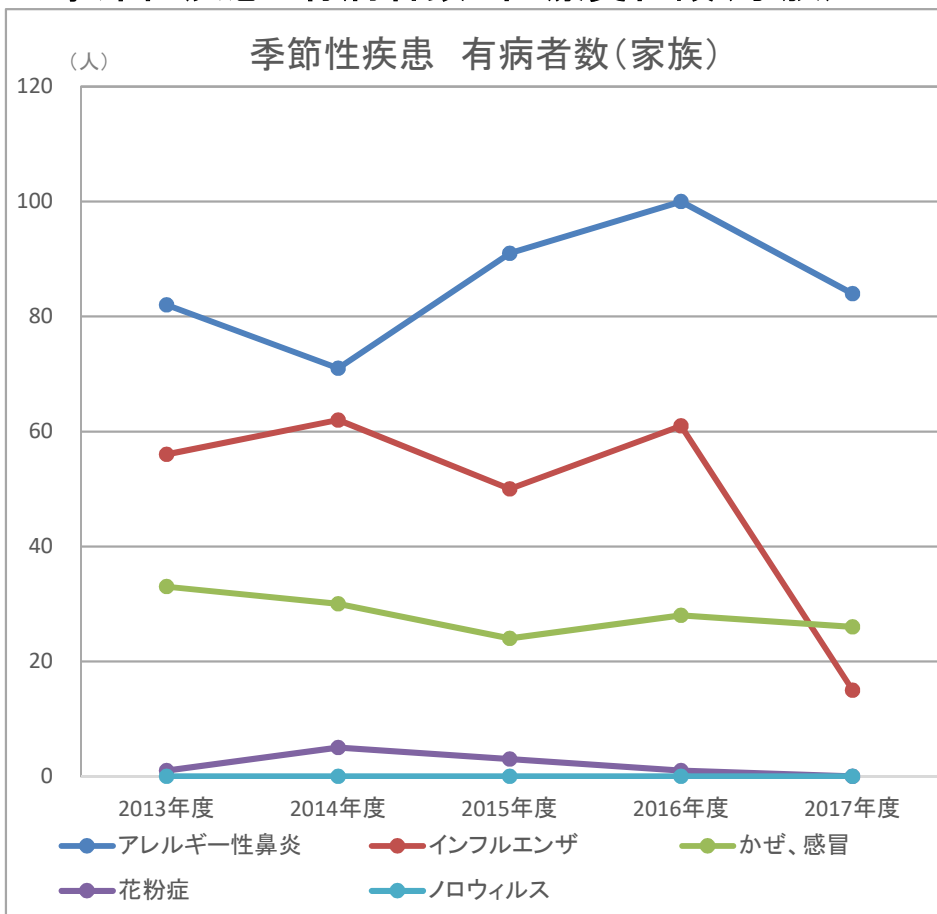
<医療費総額>

アレルギー性鼻炎とインフルエンザの医療費が突出して多い。

アレルギー性鼻炎の医療費については増加傾向となっており、インフルエンザの医療費については減少傾向となっている。

季節性疾患 有病者数と医療費総額(家族)

(グラフ集計期間:2013~2017年度 歯科除く)



<有病者数>

アレルギー性鼻炎とインフルエンザの有病者数が多い。

アレルギー性鼻炎有病者数は増加傾向となっているが、インフルエンザの有病者数は減少傾向となっている。

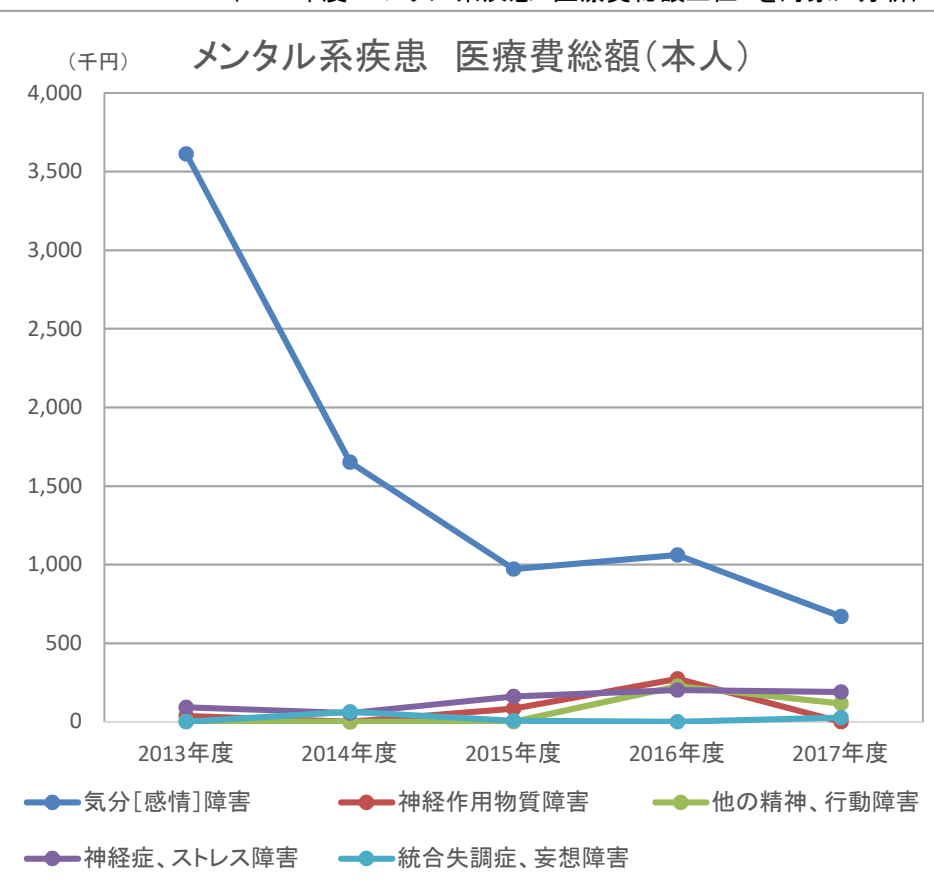
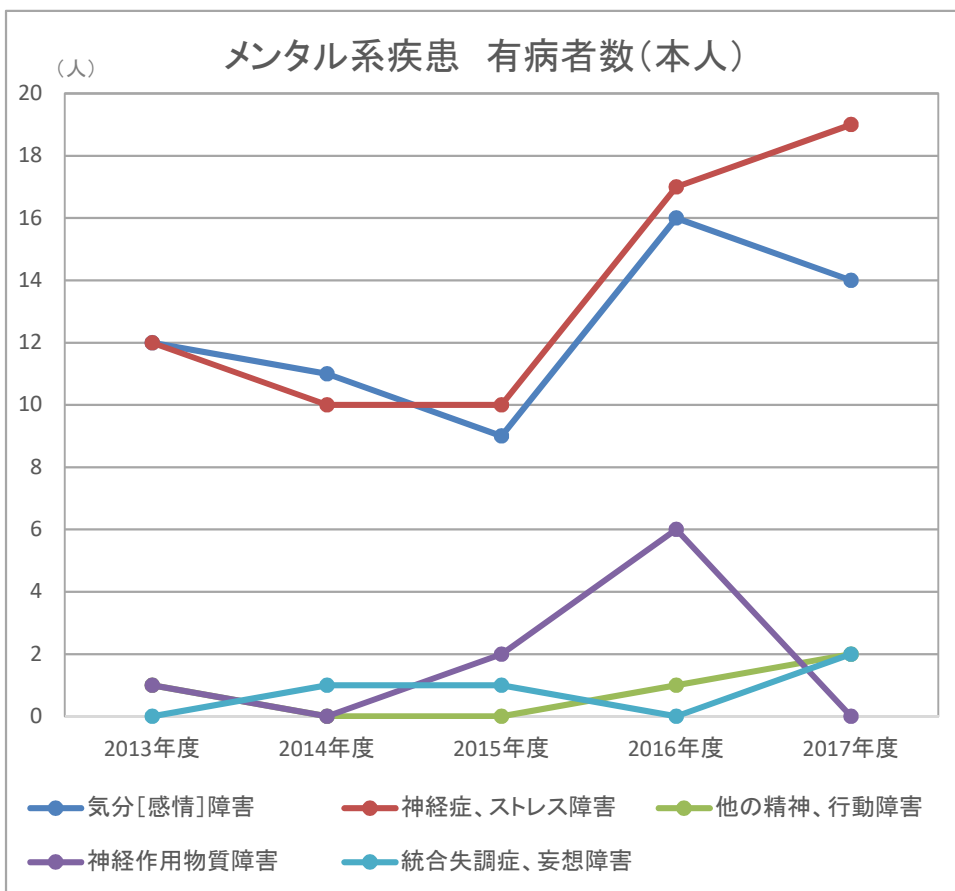
<医療費総額>

アレルギー性鼻炎の医療費が突出して高い。

アレルギー性鼻炎の医療費は増加傾向となっているが、インフルエンザの医療費はほぼ横ばいとなっている。

メンタル系疾患 有病者数と医療費総額(本人)

(グラフ集計期間:2013~2017年度 歯科除く)
(2016年度 メンタル系疾患 医療費総額上位5を対象に分析)



<有病者数>

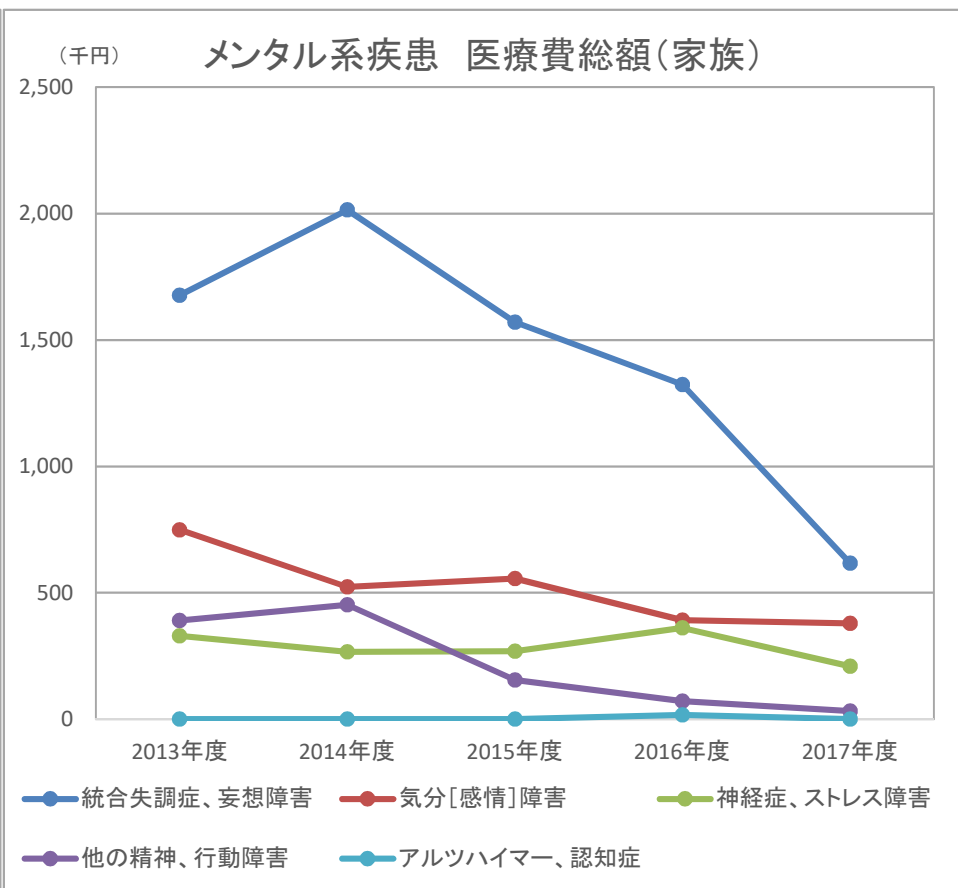
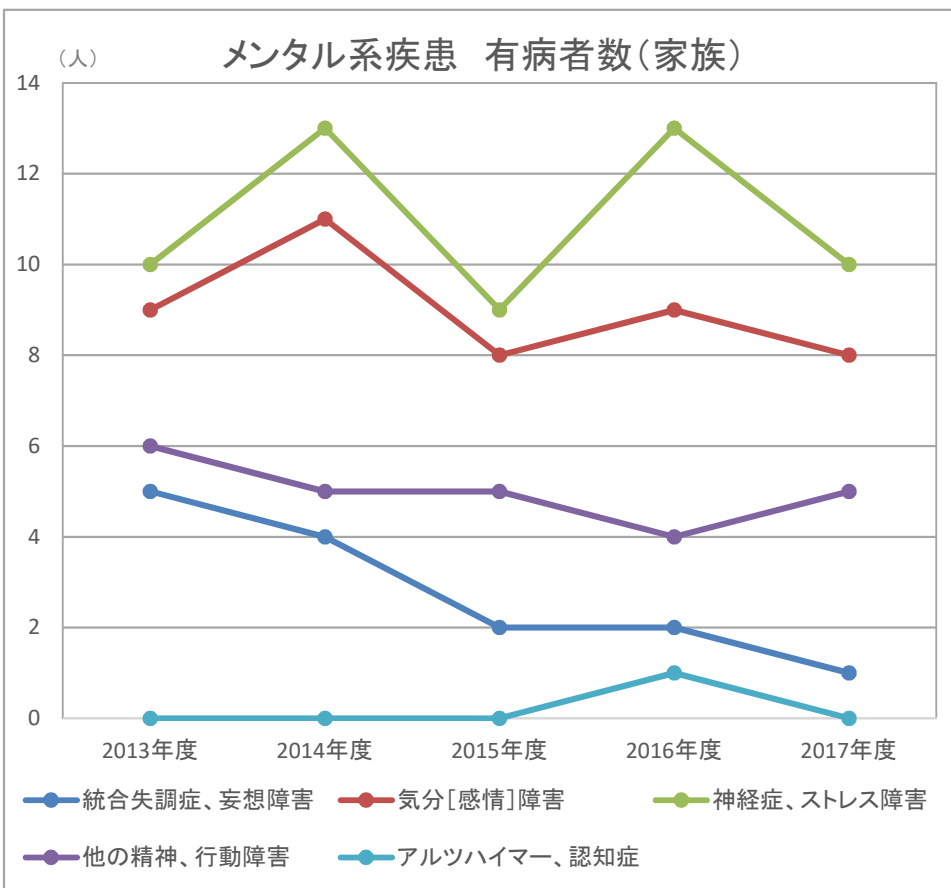
神経症・ストレス障害、気分[感情]障害の有病者数が多い。
両疾病とも有病者数が増加傾向となっている。

<医療費総額>

気分[感情]障害が突出して高いが、2013年度から2016年度にかけて減少傾向となっている。

メンタル系疾患 有病者数と医療費総額(家族)

(グラフ集計期間:2013~2017年度 歯科除く)
(2016年度 メンタル系疾患 医療費総額上位5を対象に分析)



<有病者数>

神経症・ストレス障害、気分[感情]障害の有病者数が多い。

2013年度から2016年度で有病者数の推移をみると、神経症・ストレス障害は横ばいとなっているが、気分[感情]障害は減少傾向となっている。

本人について神経症・ストレス障害、気分[感情]障害の有病者数は増加傾向にある。


STEP 2 健康課題の抽出

No.	STEP1 対応項目	基本分析による現状把握から見える主な健康課題		対策の方向性	優先すべき 課題
1	ア, イ, エ, オ, カ, キ	<p>組合全体の医療費を傷病別にみると「新生物」が最も高く、次いで「循環器系疾患」が多い。</p> <p>本人では、「新生物」「感染症・寄生虫症」「皮膚・皮下組織疾患」の順で医療費が高い。</p> <p>家族では、「呼吸器系疾患」「循環器系疾患」「新生物」の順で医療費が高い。</p> <p>悪性新生物をみると本人家族ともに消化器の悪性新生物と女性特有の悪性新生物（乳房、女性生殖器）の医療費が高くなっている。</p> <p>循環器系疾患をみると、本人では「高血圧性疾患」の医療費が高くなっている。家族では「脳血管疾患」の医療費が高く、年々増加傾向となっている。</p>	➔	<ul style="list-style-type: none"> ・会社が行う定期健康診断は、従前より検査項目が充実しており、当組合は特定健診項目費用とがん検診費用を負担している。健診体制はできていると判断している。 ・「新生物」に関しては早期発見・早期治療。「高脂血症」「高血圧」「糖尿病」の早期治療を推進。 	✓
2	イ, エ	生活習慣病をみると、本人家族ともに「高血圧性疾患」の医療費が最も高く、本人においては増加傾向にある。	➔	<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣病の受診勧奨基準値以上や基準値を超えながら受診した形跡のない者などへの対応については、健保組合・事業主ともに医療専門職がいない中での受診勧奨は難しい。 法定の保健指導対象外の者への指導はできていない。 今後保健師など医療専門職の短期派遣による指導の機会を設けるなどの対応を進める。 	
3	ク	メンタル系疾患の有病者をみると、本人家族ともに神経症・ストレス障害、気分〔感情〕障害が多い。本人については有病者数が増加傾向にある。メンタル系疾患の医療費をみると、本人家族ともに気分〔感情〕障害の医療費が突出して高いが、減少傾向にある。	➔	野球観戦や宿泊施設の利用補助、リゾート利用券の補助などを行い、リフレッシュの機会を設けることで、メンタルケアを行っていく。	
4	ウ	<p>本人で運動習慣がある方の割合が少なく（18%）、20歳以上からの体重変化があった方の割合が高い（39%）。</p> <p>本人については、喫煙習慣や飲酒習慣がある方も多く体重変化に影響を与えていると考えられる。</p>	➔	<p>体育奨励を行うことで、運動習慣の定着を目指す。</p> <p>また、禁煙活動について補助を実施することで禁煙しやすい体制を整備する。</p>	

基本情報

No.	特徴		対策検討時に留意すべき点
1	<p>健保組合には医療専門職が不在</p> <p>男性の被保険者は年齢に偏りがある</p>	➔	<p>男性被保険者の年齢の偏りについては早急な改善が不可能であるが、加入者の居住地域の範囲が限られているため、保健指導は徹底しやすい。</p> <p>一方、当組合には医療専門職がおらず、定期的な派遣等での対応を図る必要がある。</p>

保健事業の実施状況

No.	特徴	対策検討時に留意すべき点
1	家族健診の未受診者へのフォローが少ない。 健診受診者へのフォローができていない。	 家族健診については引き続きアナウンス等を行い受診率向上を目指す。 健康診断後の再検査費用の補助を行うことで、二次健診を受けやすい体制を整備する。

STEP 3 保健事業の実施計画

事業全体の目的

特定健診や保健指導、各種検診を実施することで加入者の健康維持・重症化予防を行う。

事業全体の目標

生活習慣病や悪性新生物についての重症化予防（医療費の削減）

事業の一覧

職場環境の整備

加入者への意識づけ

個別の事業

特定健康診査事業	特定健診（被保険者）
特定健康診査事業	特定健診（被扶養者）
特定保健指導事業	特定保健指導
保健指導宣伝	育児読本
保健指導宣伝	健康管理に関するパンフレット等の配布
保健指導宣伝	医療費通知
保健指導宣伝	歯の予防健診
保健指導宣伝	ジェネリック
疾病予防	こころとからだの健康相談
疾病予防	家族健診
疾病予防	がん検診
疾病予防	人間ドック補助
疾病予防	インフルエンザ予防接種補助
疾病予防	常備薬の斡旋
疾病予防	うがい薬、消毒液、マスクの提供
疾病予防	禁煙チャレンジ
疾病予防	宿泊施設等利用補助
疾病予防	マッサージルーム
疾病予防	野球観戦シート
疾病予防	リゾート施設利用補助
疾病予防	重症化予防
疾病予防	わかりやすい健診結果
疾病予防	健康診断後の再検査費用支援
体育奨励	スポーツ大会等参加費補助
体育奨励	ウォーキングプログラム

※事業は予算科目順に並び替えて表示されています。

予算科目	注1)事業分類	新規既存	事業名	対象者				注2)実施主体	注3)プロセス分類	実施方法	注4)ストラクチャー分類	実施体制	予算額(千円)					事業目標	健康課題との関連												
				対象事業所	性別	年齢	対象者						実施計画																		
													平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度			平成35年度											
アウトプット指標												アウトカム指標																			
職場環境の整備																															
加入者への意識づけ																															
個別の事業																															
特定健康診査事業	3,4	既存(法定)	特定健診(被保険者)	全て	男女	40~74	被保険者	2	イ,エ,キ,ク,ケ		ア,オ,キ,ケ,コ		継続して実施	継続して実施	継続して実施	継続して実施	継続して実施	被保険者の健康維持 生活習慣病の早期発見・早期治療による重症化予防	<p>生活習慣病をみると、本人家族ともに「高血圧性疾患」の医療費が最も高く、本人においては増加傾向にある。</p> <p>組合全体の医療費を傷病別にみると「新生物」が最も高く、次いで「循環器系疾患」が多い。本人では、「新生物」「感染症・寄生虫症」「皮膚・皮下組織疾患」の順で医療費が高い。家族では、「呼吸器系疾患」「循環器系疾患」「新生物」の順で医療費が高い。</p> <p>悪性新生物をみると本人家族ともに消化器の悪性新生物と女性特有の悪性新生物(乳房、女性生殖器)の医療費が高くなっている。</p> <p>循環器系疾患をみると、本人では「高血圧性疾患」の医療費が高くなっている。家族では「脳血管疾患」の医療費が高く、年々増加傾向となっている。</p>												
													受診率(【実績値】98.0% 【目標値】平成30年度：98.5% 平成31年度：98.5% 平成32年度：98.5% 平成33年度：98.5% 平成34年度：98.5% 平成35年度：98.5%)事業主が行う定期健康診断と併せて実施することで高い受診率を維持する。												改善率(【実績値】21.3% 【目標値】平成30年度：21.0% 平成31年度：21.5% 平成32年度：21.5% 平成33年度：22.0% 平成34年度：22.0% 平成35年度：22.5%)特定健診受診者の健診レベルの改善率向上を目指す						
													継続して実施	継続して実施	継続して実施	継続して実施	継続して実施			継続して実施											
特定健康診査事業	3,4	既存(法定)	特定健診(被扶養者)	全て	男女	40~74	被扶養者	1	イ,エ,キ,ク,ケ		イ,オ,キ,ケ		継続して実施	継続して実施	継続して実施	継続して実施	継続して実施	被扶養者の健康維持 生活習慣病の早期発見・早期治療による重症化予防	<p>組合全体の医療費を傷病別にみると「新生物」が最も高く、次いで「循環器系疾患」が多い。本人では、「新生物」「感染症・寄生虫症」「皮膚・皮下組織疾患」の順で医療費が高い。家族では、「呼吸器系疾患」「循環器系疾患」「新生物」の順で医療費が高い。</p> <p>悪性新生物をみると本人家族ともに消化器の悪性新生物と女性特有の悪性新生物(乳房、女性生殖器)の医療費が高くなっている。</p> <p>循環器系疾患をみると、本人では「高血圧性疾患」の医療費が高くなっている。家族では「脳血管疾患」の医療費が高く、年々増加傾向となっている。</p> <p>生活習慣病をみると、本人家族ともに「高血圧性疾患」の医療費が最も高く、本人においては増加傾向にある。</p>												
													受診率(【実績値】63.0% 【目標値】平成30年度：59.5% 平成31年度：59.5% 平成32年度：59.5% 平成33年度：60.0% 平成34年度：60.0% 平成35年度：60.0%)特定健診受診率の維持・向上												改善率(【実績値】19.4% 【目標値】平成30年度：19.0% 平成31年度：19.5% 平成32年度：19.5% 平成33年度：20.0% 平成34年度：20.0% 平成35年度：20.5%)特定健診受診者の健診レベルの改善率向上を目指す						
													継続して実施	継続して実施	継続して実施	継続して実施	継続して実施			継続して実施											

予算科目	注1)事業分類	新規既存	事業名	対象者				注2)実施主体	注3)プロセス分類	実施方法	注4)ストラクチャー分類	実施体制	予算額(千円)					事業目標	健康課題との関連	
				対象事業所	性別	年齢	対象者						実施計画							
													平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度			平成35年度
アウトプット指標												アウトカム指標								
特定保健指導事業	4	既存	特定保健指導	全て	男女	40～74	加入者全員	1	イ,エ,キ,ク,ケ,シ	-	ア,オ,キ,ケ	-	継続して実施	継続して実施	継続して実施	継続して実施	継続して実施	継続して実施	加入者の健康維持 生活習慣病の早期発見・早期治療による重症化予防	生活習慣病をみると、本人家族ともに「高血圧性疾患」の医療費が最も高く、本人においては増加傾向にある。 組合全体の医療費を傷病別にみると「新生物」が最も高く、次いで「循環器系疾患」が多い。 本人では、「新生物」「感染症・寄生虫症」「皮膚・皮下組織疾患」の順で医療費が高い。 家族では、「呼吸器系疾患」「循環器系疾患」「新生物」の順で医療費が高い。 悪性新生物をみると本人家族ともに消化器の悪性新生物と女性特有の悪性新生物(乳房、女性生殖器)の医療費が高くなっている。 循環器系疾患をみると、本人では「高血圧性疾患」の医療費が高くなっている。家族では「脳血管疾患」の医療費が高く、年々増加傾向となっている。
	実施率(【実績値】83.0% 【目標値】平成30年度：83.0% 平成31年度：83.0% 平成32年度：83.0% 平成33年度：83.0% 平成34年度：83.0% 平成35年度：83.0%)継続して高い実施率を維持する。												改善率(【実績値】30.4% 【目標値】平成30年度：31.0% 平成31年度：33.0% 平成32年度：35.0% 平成33年度：37.0% 平成34年度：39.0% 平成35年度：40.0%)特定保健指導受診者の保健指導レベル改善率向上を目指す							
保健指導宣伝	5	既存	育児読本	全て	女性	20～74	基準該当者	1	ク	-	ケ	-	継続して実施	継続して実施	継続して実施	継続して実施	継続して実施	継続して実施	育児サポート	該当なし(これまでの経緯等で実施する事業)
	配布率(【実績値】100% 【目標値】平成30年度：100% 平成31年度：100% 平成32年度：100% 平成33年度：100% 平成34年度：100% 平成35年度：100%)配布率100%を維持する												育児読本は育児サポートを目的としており、その成果を数値で把握することは困難と考えられるため(アウトカムは設定されていません)							
	2	既存	健康管理に関するパンフレットの配布	全て	男女	0～74	加入者全員	1	ス	-	ケ	-	継続して実施	継続して実施	継続して実施	継続して実施	継続して実施	継続して実施	健康管理に関するパンフレットを配布することで健康意識の醸成を計る	該当なし(これまでの経緯等で実施する事業)
	配布率(【実績値】100% 【目標値】平成30年度：100% 平成31年度：100% 平成32年度：100% 平成33年度：100% 平成34年度：100% 平成35年度：100%)配布率100%を維持する												健康管理に関するパンフレットの配布は健康意識の醸成による疾病予防を目的としており、健康意識の醸成状況を数値で把握することは困難と考えられるため(アウトカムは設定されていません)							
	5	既存	医療費通知	全て	男女	20～65	被保険者	1	ス	-	ア,ケ	-	継続して実施	継続して実施	継続して実施	継続して実施	継続して実施	継続して実施	医療費の内訳を確認することで疾病の状況など自らの健康状況を把握していただく。 悪性新生物をみると本人家族ともに消化器の悪性新生物と女性特有の悪性新生物(乳房、女性生殖器)の医療費が高くなっている。 循環器系疾患をみると、本人では「高血圧性疾患」の医療費が高くなっている。家族では「脳血管疾患」の医療費が高く、年々増加傾向となっている。	
	配布回数(【実績値】4回 【目標値】平成30年度：4回 平成31年度：4回 平成32年度：4回 平成33年度：4回 平成34年度：4回 平成35年度：4回)自宅直送の実施継続 委託先から直送												医療費通知の発行は加入者自身が自らの過去の健康状況(疾病状況)を把握することが目的であり、その成果を数値で把握することは困難な為(アウトカムは設定されていません)							
	3	既存	歯の予防健診	全て	男女	0～74	加入者全員	1	ウ,キ,ク,ケ,シ	-	ア,キ,ケ	-	継続して実施	継続して実施	継続して実施	継続して実施	継続して実施	継続して実施	歯科予防についての知識を定着させる 歯科についての健康意識の醸成	該当なし(これまでの経緯等で実施する事業)
	受診人数(【実績値】2人 【目標値】平成30年度：3人 平成31年度：3人 平成32年度：3人 平成33年度：5人 平成34年度：5人 平成35年度：5人)一定数の受診者数を維持する												罹患者数の減少(【実績値】291人 【目標値】平成30年度：350人 平成31年度：345人 平成32年度：340人 平成33年度：335人 平成34年度：330人 平成35年度：330人)歯科の罹患者数の減少							

予算科目	注1) 事業分類	新規既存	事業名	対象者				注2) 実施主体	注3) プロセス分類	実施方法	注4) ストラクチャー分類	実施体制	予算額(千円)					事業目標	健康課題との関連														
				対象事業所	性別	年齢	対象者						実施計画																				
													平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度			平成35年度													
アウトプット指標												アウトカム指標																					
7	既存		ジェネリック	全て	男女	18～65	被保険者、被扶養者	1	キ、ク	-		ア、ケ	-	年1回の配布を検討	継続して実施	継続して実施	継続して実施	継続して実施	継続して実施	継続して実施	医療費の適正化	<p>組合全体の医療費を傷病別にみると「新生物」が最も高く、次いで「循環器系疾患」が多い。</p> <p>本人では、「新生物」「感染症・寄生虫症」「皮膚・皮下組織疾患」の順で医療費が高い。</p> <p>家族では、「呼吸器系疾患」「循環器系疾患」「新生物」の順で医療費が高い。</p> <p>悪性新生物をみると本人家族ともに消化器の悪性新生物と女性特有の悪性新生物（乳房、女性生殖器）の医療費が高くなっている。</p> <p>循環器系疾患をみると、本人では「高血圧性疾患」の医療費が高くなっている。家族では「脳血管疾患」の医療費が高く、年々増加傾向となっている。</p>											
配布回数(【実績値】 - 【目標値】平成30年度：1回 平成31年度：1回 平成32年度：1回 平成33年度：1回 平成34年度：1回 平成35年度：1回)年1回の実施												利用率(【実績値】 72.5% 【目標値】平成30年度：73% 平成31年度：74% 平成32年度：75% 平成33年度：75% 平成34年度：76% 平成35年度：76%)ジェネリック利用率の向上																					
疾病予防	5,6	既存	こころとからだの健康相談	全て	男女	20～74	被保険者、被扶養者	1	ケ、シ	-			ア、キ、ケ	-	継続して実施	継続して実施	継続して実施	継続して実施	継続して実施	継続して実施	一般疾病とメンタル2種類について早期対応による重症化予防	<p>メンタル系疾患の有病者をみると、本人家族ともに神経症・ストレス障害、気分【感情】障害が多い。本人については有病者数が増加傾向にある。</p> <p>メンタル系疾患の医療費をみると、本人家族ともに気分【感情】障害の医療費が突出して高いが、減少傾向にある。</p> <p>組合全体の医療費を傷病別にみると「新生物」が最も高く、次いで「循環器系疾患」が多い。</p> <p>本人では、「新生物」「感染症・寄生虫症」「皮膚・皮下組織疾患」の順で医療費が高い。</p> <p>家族では、「呼吸器系疾患」「循環器系疾患」「新生物」の順で医療費が高い。</p> <p>悪性新生物をみると本人家族ともに消化器の悪性新生物と女性特有の悪性新生物（乳房、女性生殖器）の医療費が高くなっている。</p> <p>循環器系疾患をみると、本人では「高血圧性疾患」の医療費が高くなっている。家族では「脳血管疾患」の医療費が高く、年々増加傾向となっている。</p>											
															相談件数(【実績値】 4件 【目標値】平成30年度：5件 平成31年度：5件 平成32年度：5件 平成33年度：5件 平成34年度：5件 平成35年度：5件)周知を行い引き続き健康相談を利用していただく												こころとからだの健康相談は一般疾患やメンタルについて治療を行うことではなく相談を受けることを目的としており、その成果を具体的数値として把握することは難しいため。(アウトカムは設定されていません)						
															3	既存		家族健診	全て	男女	20～74	被扶養者	1	イ、ウ、キ、ク、ケ、サ	-		キ、ケ	-	継続して実施	継続して実施	継続して実施	継続して実施	継続して実施
配偶者及び40歳以上の被扶養者について生活習慣病・がんの早期発見・早期治療による重症化予防を行う																																	

予算科目	注1)事業分類	新規既存	事業名	対象者				注2)実施主体	注3)プロセス分類	実施方法	注4)ストラクチャー分類	実施体制	予算額(千円)					事業目標	健康課題との関連
				対象事業所	性別	年齢	対象者						実施計画						
													平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度		
アウトプット指標												アウトカム指標							
健診者数(【実績値】89人 【目標値】平成30年度：75人 平成31年度：75人 平成32年度：75人 平成33年度：80人 平成34年度：80人 平成35年度：80人)周知を行うことで受診率の向上を目指す												医療費(【実績値】39,800千円 【目標値】平成30年度：39,900千円 平成31年度：40,000千円 平成32年度：40,100千円 平成33年度：40,000千円 平成34年度：39,900千円 平成35年度：39,800千円)被扶養者の医療費削減							
3,4	既存	がん検診	全て	男女	30～65	被保険者	2	イ,ウ,キ,ク,ケ,サ	-	ア,キ,ケ	-	継続して実施	継続して実施	継続して実施	継続して実施	継続して実施	継続して実施	がんの早期発見・早期治療による重症化予防	<p>組合全体の医療費を傷病別にみると「新生物」が最も高く、次いで「循環器系疾患」が多い。本人では、「新生物」「感染症・寄生虫症」「皮膚・皮下組織疾患」の順で医療費が高い。家族では、「呼吸器系疾患」「循環器系疾患」「新生物」の順で医療費が高い。</p> <p>悪性新生物をみると本人家族ともに消化器の悪性新生物と女性特有の悪性新生物(乳房、女性生殖器官)の医療費が高くなっている。</p> <p>循環器系疾患をみると、本人では「高血圧性疾患」の医療費が高くなっている。家族では「脳血管疾患」の医療費が高く、年々増加傾向となっている。</p>
受診率(【実績値】98.0% 【目標値】平成30年度：98.5% 平成31年度：98.5% 平成32年度：98.5% 平成33年度：98.5% 平成34年度：98.5% 平成35年度：98.5%)受診率を維持する(事業主が行う定期健康診査と併せて実施)												医療費(【実績値】0千円 【目標値】平成30年度：4,300千円 平成31年度：4,400千円 平成32年度：4,500千円 平成33年度：4,400千円 平成34年度：4,300千円 平成35年度：4,200千円)被保険者の悪性新生物医療費の減少							
3	既存	人間ドック補助	全て	男女	20～74	被保険者,被扶養者	1	ウ,キ,ク,ケ	-	キ,ケ	-	継続して実施	継続して実施	継続して実施	継続して実施	継続して実施	継続して実施	健康状態の把握 疾病の早期発見・早期治療による重症化予防	<p>生活習慣病をみると、本人家族ともに「高血圧性疾患」の医療費が最も高く、本人においては増加傾向にある。</p> <p>組合全体の医療費を傷病別にみると「新生物」が最も高く、次いで「循環器系疾患」が多い。本人では、「新生物」「感染症・寄生虫症」「皮膚・皮下組織疾患」の順で医療費が高い。家族では、「呼吸器系疾患」「循環器系疾患」「新生物」の順で医療費が高い。</p> <p>悪性新生物をみると本人家族ともに消化器の悪性新生物と女性特有の悪性新生物(乳房、女性生殖器官)の医療費が高くなっている。</p> <p>循環器系疾患をみると、本人では「高血圧性疾患」の医療費が高くなっている。家族では「脳血管疾患」の医療費が高く、年々増加傾向となっている。</p>
受診者数(【実績値】94人 【目標値】平成30年度：100人 平成31年度：105人 平成32年度：105人 平成33年度：110人 平成34年度：110人 平成35年度：110人)受診者数の増加												他の保健事業のアウトカム指標と重複する為(アウトカムは設定されていません)							
3	既存	インフルエンザ予防接種補助	全て	男女	0～74	加入者全員	1	ケ	-	キ	-	継続して実施	継続して実施	継続して実施	継続して実施	継続して実施	継続して実施	インフルエンザの予防接種を行うことで発症を予防する	<p>組合全体の医療費を傷病別にみると「新生物」が最も高く、次いで「循環器系疾患」が多い。本人では、「新生物」「感染症・寄生虫症」「皮膚・皮下組織疾患」の順で医療費が高い。家族では、「呼吸器系疾患」「循環器系疾患」「新生物」の順で医療費が高い。</p> <p>悪性新生物をみると本人家族ともに消化器の悪性新生物と女性特有の悪性新生物(乳房、女性生殖器官)の医療費が高くなっている。</p> <p>循環器系疾患をみると、本人では「高血圧性疾患」の医療費が高くなっている。家族では「脳血管疾患」の医療費が高く、年々増加傾向となっている。</p>
利用率(【実績値】73% 【目標値】平成30年度：75% 平成31年度：75% 平成32年度：78% 平成33年度：78% 平成34年度：80% 平成35年度：80%)接種率の増加(接種者数/加入者数)												罹患者数(【実績値】0人 【目標値】平成30年度：100人 平成31年度：100人 平成32年度：95人 平成33年度：95人 平成34年度：90人 平成35年度：90人)インフルエンザ罹患者数の減少							

予算科目	注1)事業分類	新規既存	事業名	対象者				注2)実施主体	注3)プロセス分類	実施方法	注4)ストラクチャー分類	実施体制	予算額(千円)					事業目標	健康課題との関連
				対象事業所	性別	年齢	対象者						実施計画						
													平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度		
アウトプット指標												アウトカム指標							
8	既存	常備薬の斡旋	全て	男女	20～74	被保険者	1	ケ	-	ケ,コ	-	継続して実施	継続して実施	継続して実施	継続して実施	継続して実施	継続して実施	常備薬を利用することで疾病やケガについて早急に対応を行える状況を整備する	該当なし（これまでの経緯等で実施する事業）
配布率【実績値】100% 【目標値】平成30年度：100% 平成31年度：100% 平成32年度：100% 平成33年度：100% 平成34年度：100% 平成35年度：100%												常備薬を斡旋することによる成果を数値的に把握することは困難な為(アウトカムは設定されていません)							
8	既存	うがい薬、消毒液、マスクの提供	全て	男女	20～74	被保険者	1	シ	-	ア,ケ	-	継続して実施	継続して実施	継続して実施	継続して実施	継続して実施	継続して実施	風邪やインフルエンザの予防	<p>組合全体の医療費を傷病別にみると「新生物」が最も高く、次いで「循環器系疾患」が多い。本人では、「新生物」「感染症・寄生虫症」「皮膚・皮下組織疾患」の順で医療費が高い。家族では、「呼吸器系疾患」「循環器系疾患」「新生物」の順で医療費が高い。</p> <p>悪性新生物をみると本人家族ともに消化器の悪性新生物と女性特有の悪性新生物（乳房、女性生殖器）の医療費が高くなっている。</p> <p>循環器系疾患をみると、本人では「高血圧性疾患」の医療費が高くなっている。家族では「脳血管疾患」の医療費が高く、年々増加傾向となっている。</p>
設置率【実績値】100% 【目標値】平成30年度：100% 平成31年度：100% 平成32年度：100% 平成33年度：100% 平成34年度：100% 平成35年度：100%												うがい薬の提供の目的は風邪やインフルエンザの予防だが、他にも同様の目的での保健事業を行っており、当保健事業の成果を数値として把握することは困難な為(アウトカムは設定されていません)							
5	既存	禁煙チャレンジ	全て	男女	20～65	被保険者	1	ク,ケ	-	イ,ケ	-	継続して実施	継続して実施	継続して実施	継続して実施	継続して実施	継続して実施	喫煙者の減少（非喫煙者の増加）	<p>本人で運動習慣がある方の割合が少なく（18%）、20歳以上からの体重変化があった方の割合が高い（39%）。</p> <p>本人については、喫煙習慣や飲酒習慣がある方も多く体重変化に影響を与えていると考えられる。</p>
配布率【実績値】100% 【目標値】平成30年度：100% 平成31年度：100% 平成32年度：100% 平成33年度：100% 平成34年度：100% 平成35年度：100%												禁煙達成者数【実績値】2人 【目標値】平成30年度：3人 平成31年度：3人 平成32年度：3人 平成33年度：4人 平成34年度：4人 平成35年度：4人禁煙達成者数の増加							
8	既存	宿泊施設等利用補助	全て	男女	0～74	被保険者,被扶養者	1	ケ	-	ス	-	継続して実施	継続して実施	継続して実施	継続して実施	継続して実施	継続して実施	宿泊施設を利用しやすい環境を整備することで心身のリフレッシュを行う機会を提供する	<p>メンタル系疾患の有病者をみると、本人家族ともに神経症・ストレス障害、気分【感情】障害が多い。本人については有病者数が増加傾向にある。</p> <p>メンタル系疾患の医療費をみると、本人家族ともに気分【感情】障害の医療費が突出して高いが、減少傾向にある。</p>
利用者数【実績値】92人 【目標値】平成30年度：70人 平成31年度：70人 平成32年度：80人 平成33年度：80人 平成34年度：90人 平成35年度：100人)												宿泊施設の利用補助は心身のリフレッシュを目的としており、その成果を数値で把握することは困難な為(アウトカムは設定されていません)							
8	既存	マッサージルーム	一部の事業所	男女	20～65	被保険者	3	シ	-	ア,ケ	-	継続して実施	継続して実施	継続して実施	継続して実施	継続して実施	継続して実施	身体の疲労回復 心身のリフレッシュ	該当なし（これまでの経緯等で実施する事業）
利用者数【実績値】250人 【目標値】平成30年度：260人 平成31年度：260人 平成32年度：260人 平成33年度：260人 平成34年度：260人 平成35年度：260人)												マッサージルームの開設は身体の疲労回復や心身のリフレッシュを目的としており、その成果を数値で把握することは困難な為(アウトカムは設定されていません)							
8	既存	野球観戦シート	全て	男女	0～74	被保険者,被扶養者	1	ス	-	ア	-	継続して実施	継続して実施	継続して実施	継続して実施	継続して実施	継続して実施	心身のリフレッシュ	<p>メンタル系疾患の有病者をみると、本人家族ともに神経症・ストレス障害、気分【感情】障害が多い。本人については有病者数が増加傾向にある。</p> <p>メンタル系疾患の医療費をみると、本人家族ともに気分【感情】障害の医療費が突出して高いが、減少傾向にある。</p>
利用率【実績値】77% 【目標値】平成30年度：100% 平成31年度：100% 平成32年度：100% 平成33年度：100% 平成34年度：100% 平成35年度：100%												野球観戦は心身のリフレッシュを目的としており、その成果を数値で把握することは困難な為(アウトカムは設定されていません)							

予算科目	注1)事業分類	新規既存	事業名	対象者				注2)実施主体	注3)プロセス分類	実施方法	注4)ストラクチャー分類	実施体制	予算額(千円)					事業目標	健康課題との関連				
				対象事業所	性別	年齢	対象者						実施計画										
													平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度			平成35年度			
アウトプット指標												アウトカム指標											
8	既存	リゾート施設利用補助	全て	男女	0～74	被保険者、被扶養者	1	ス	-	ケ	-	継続して実施	継続して実施	継続して実施	継続して実施	継続して実施	継続して実施	心身のリフレッシュ	メンタル系疾患の有病者をみると、本人家族ともに神経症・ストレス障害、気分【感情】障害が多い。本人については有病者数が増加傾向にある。 メンタル系疾患の医療費をみると、本人家族ともに気分【感情】障害の医療費が突出して高いが、減少傾向にある。				
利用促進【実績値】175人 【目標値】平成30年度：145人 平成31年度：145人 平成32年度：145人 平成33年度：150人 平成34年度：150人 平成35年度：150人-												リゾート施設利用補助は心身のリフレッシュを目的としており、その成果を数値で把握することは困難な為(アウトカムは設定されていません)											
4	新規	重症化予防	全て	男女	40～74	被保険者	1	イ,キ,ク,ケ	-	ア,キ,ケ	-	服薬中で保健指導の対象からはずれていた被保険者(特定健診対象前)を対象に保健指導を実施	継続して実施	継続して実施	継続して実施	継続して実施	継続して実施	服薬中の方に対しても保健指導を実施することで、重症化する方を減らしていく	生活習慣病をみると、本人家族ともに「高血圧性疾患」の医療費が最も高く、本人においては増加傾向にある。				
受診者数【実績値】 - 【目標値】平成30年度：5人 平成31年度：10人 平成32年度：15人 平成33年度：20人 平成34年度：20人 平成35年度：20人												受診者数の増加					特定保健指導のアウトカム指標と重複する為、ここでは設定しない(アウトカムは設定されていません)						
5	新規	わかりやすい健診結果	全て	男女	40～74	加入者全員	3	エ,キ,ク	-	キ,ケ	-	健診結果の提供を行うことを周知 健診結果を分かりやすく配布することで意識の向上を計る	継続して実施	継続して実施	継続して実施	継続して実施	継続して実施	加入者の健診結果を従来より分かりやすい形で提供することで自らの健康状態を正確に把握してもらい、健康意識の向上を計る	生活習慣病をみると、本人家族ともに「高血圧性疾患」の医療費が最も高く、本人においては増加傾向にある。				
配布率【実績値】 - 【目標値】平成30年度：100% 平成31年度：100% 平成32年度：100% 平成33年度：100% 平成34年度：100% 平成35年度：100%												特定健診受診者へ健診結果の配布を行う					わかりやすい健診結果の提供は、加入者の健康意識の向上であり、その成果を具体的数で把握することは困難な為(アウトカムは設定されていません)						
4	新規	健康診断後の再検査費用支援	全て	男女	20～74	被保険者、被扶養者	1	イ,ウ,キ,ク,ケ	-	ア,キ,ケ	-	健診後の再検査費用の補助を実施	継続して実施	継続して実施	継続して実施	継続して実施	継続して実施	健診後の再検査費用を補助することで、再検査を受けやすい状況を整備 重症化予防をより積極的に行う	組合全体の医療費を傷病別にみると「新生物」が最も高く、次いで「循環器系疾患」が多い。 本人では、「新生物」「感染症・寄生虫症」「皮膚・皮下組織疾患」の順で医療費が高い。 家族では、「呼吸器系疾患」「循環器系疾患」「新生物」の順で医療費が高い。 悪性新生物をみると本人家族ともに消化器の悪性新生物と女性特有の悪性新生物(乳房、女性生殖器)の医療費が高くなっている。 循環器系疾患をみると、本人では「高血圧性疾患」の医療費が高くなっている。家族では「脳血管疾患」の医療費が高く、年々増加傾向となっている。				
受診者数【実績値】 - 【目標値】平成30年度：30人 平成31年度：35人 平成32年度：40人 平成33年度：45人 平成34年度：50人 平成35年度：50人												再審査受診者数の増加を目指す					健康診断後の再検査費用支援の目的は、健診結果の改善や疾病の早期発見・早期治療であり、この事業の成果は他の事業の成果を重複する為ここでは設定しない(アウトカムは設定されていません)						
体育奨励	5	既存	スポーツ大会等参加費補助	全て	男女	0～74	被保険者、被扶養者	1	シ	-	ス	-	継続して実施	継続して実施	継続して実施	継続して実施	継続して実施	継続して実施	運動習慣の向上及び定着	本人で運動習慣がある方の割合が少なく(18%)、20歳以上からの体重変化があった方の割合が高い(39%)。 本人については、喫煙習慣や飲酒習慣がある方も多く体重変化に影響を与えていると考えられる。			
	参加者【実績値】4人 【目標値】平成30年度：3人 平成31年度：4人 平成32年度：4人 平成33年度：5人 平成34年度：5人 平成35年度：5人												参加者数の増加					スポーツ大会等参加補助は運動習慣の定着を目的としているが、その成果を把握することは困難な為(アウトカムは設定されていません)					
8	既存	ウォーキングプログラム	全て	男女	0～74	加入者全員	1	ケ	-	ケ	-	継続して実施	継続して実施	継続して実施	継続して実施	継続して実施	継続して実施	運動習慣の向上及び定着	本人で運動習慣がある方の割合が少なく(18%)、20歳以上からの体重変化があった方の割合が高い(39%)。 本人については、喫煙習慣や飲酒習慣がある方も多く体重変化に影響を与えていると考えられる。				
参加者数【実績値】10人 【目標値】平成30年度：10人 平成31年度：10人 平成32年度：10人 平成33年度：15人 平成34年度：15人 平成35年度：15人												参加促進による参加者数の増加を目指す					ウォーキングプログラムは運動習慣の定着を目的としているが、その成果を把握することは困難な為(アウトカムは設定されていません)						

予 算 科 目	注1) 事業 分類	新 規 既 存	事業名	対象者				注2) 実施 主体	注3) プロセス 分類	実施方法	注4) ストラク チャー 分類	実施体制	予算額(千円)					事業目標	健康課題との関連
				対象 事業所	性別	年 齢	対象者						実施計画						
													平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度		
アウトプット指標												アウトカム指標							

注1) 1. 職場環境の整備 2. 加入者への意識づけ 3. 健康診査 4. 保健指導・受診勧奨 5. 健康教育 6. 健康相談 7. 後発医薬品の使用促進 8. その他の事業

注2) 1. 健保組合 2. 事業主が主体で保健事業の一部としても活用 3. 健保組合と事業主との共同事業

注3) ア. 加入者等へのインセンティブを付与 イ. 受診状況の確認（要医療者・要精密検査者の医療機関受診状況） ウ. 受診状況の確認（がん検診・歯科健診の受診状況） エ. ICTの活用（情報提供でのICT活用など） オ. 専門職による対面での健診結果の説明 カ. 他の保険者と共同で集計データを持ち寄って分析を実施
キ. 定量的な効果検証の実施 ク. 対象者の抽出（優先順位づけ、事業所の選定など） ケ. 参加の促進（選択制、事業主の協力、参加状況のモニタリング、環境整備） コ. 健診当日の面談実施・健診受診の動線活用 サ. 保険者以外が実施したがん検診のデータを活用 シ. 事業主と健康課題を共有 ス. その他

注4) ア. 事業主との連携体制の構築 イ. 産業医または産業保健師との連携体制の構築 ウ. 専門職との連携体制の構築（産業医・産業保健師を除く） エ. 他の保険者との共同事業 オ. 他の保険者との健診データの連携体制の構築 カ. 自治体との連携体制の構築 キ. 医療機関・健診機関との連携体制の構築 ク. 保険者協議会との連携体制の構築
ケ. その他の団体との連携体制の構築 コ. 就業時間内も実施可（事業主と合意） サ. 運営マニュアルの整備（業務フローの整理） シ. 人材確保・教育（ケースカンファレンス/ライブラリーの設置） ス. その他